

家業商



君助 柳 川 龜

(村茂加東)

嚴父を有本梅藏と云ふ、君は三男にして明治元年二月十日  
生誕す、全三年香々美南村龜川家の姓を嗣ぐ、同家は天正年  
間小瀬甚兵衛の家臣にして地方の名族なり、養父與平治氏は  
嘗て村會議員として村に聲望あり、君は下井澹泊に師事して  
漢書を學び、後に青年團長、消防組副組頭となり村會議員た  
ること四期村治の功勞者なり。今や現地に轉住し津山、若  
田、久米、勝田郡塩、煙草小賣人組合役員として商業界に活  
躍し地方に聲望あり。配は勝田郡勝加茂村井口氏、一男あり  
帝大出身の醫學博士にして神戸市に川島病院長として開業  
す。

學務委員 勳八等 難波 教 市君

(富村)

難波家は代々地方の精農家なり君は明治十七年三月三日を  
以て生る、郷學修了後家業を助け傍ら青年團支部長、自警團  
役員となる。日露戰役に當り鳥取歩兵第四十聯隊に編入せら  
れ滿洲守備軍として昌圖方面に駐屯す功に依り勳八等に叙せ  
らる、解隊後郷



に歸り信用組合  
理事、農會惣代  
木炭改良組合  
長、久世醬油組  
合惣代、産業基  
本調査委員に舉  
げられ尋で昭和  
元年村會議員と  
して村政に盡し、昭和九年學務委員となる配は家女なり二男  
一女を擧ぐ。

職住寺樂極



師盈 寮 井 照

(町茂加)

君は明治二十二年九月二十一日倉見に生る、嚴父を廣戸富  
藏といふ、十四歳の時無量山極樂寺の快盈和尚に從て得度  
し、明治三十九年高野山中學林に入り歸山の後極樂寺住職快  
盈上人の後を繼ぎ法燈に終始し、伽藍の改修、基本財産の造  
成に力む配は郡内高田村片岡家より入る。

元教育者

鈴木 鹿 治 郎君

(久田村)

嚴君は大野村目下初太郎氏、家代々庄屋の名門にして多年  
村會議員を勤めし有力者なり、君は明治十九年七月十九日第



門閥家

大 塚

孟君

(香々美南村)

二男に生る、後鈴木利助氏の養嗣子となり姓を更む、全四十  
年岡山師範を出て訓導として大野、泉、郷、中谷の小學校に  
教鞭を執り二十三年の星霜を重ね訓化其宜を得て各地父兄  
の信頼厚く村の  
聲望高し、退職  
後家産を襲ぎ傍  
ら濟世委員、消  
防副組頭として  
村事公同に貢献  
す、配は家女に  
して長子は津山  
中學出身の秀才  
なり、君亦狩獵に妙技あり業閑山野を跋躡し無上の娛となす  
と云ふ。

大塚家は楯形城の豪族にして天正年間此地に歸農す、代々  
庄屋を勤め、明治維新に至る、先考直三郎氏は明治二十四年  
次の砲兵上等兵にして日清、日露の兩戰役に參加し、勳功を



(君郎三直塚大考先)

以て勳七等青色桐葉章を拜受す、退て村會議員となり、五期を兼ねたる村治の功勞者なり、君は長男にして明治三十年九月四日を以て生る、郷學を了へ大正六年鳥取歩兵第四十聯隊に入り、退營後父祖の産を繼ぎ、傍ら青年團支部長、本團幹事、在郷軍人分會長、消防組部長、神社總代を勤め地方優良青年として郡の表彰及産業組合員の模範者として縣の旌表を受くと云ふ、祖母は芳野村古川の名族河田氏に出で室は中谷村池田氏より入る其間二男二女あり。

元村會議員

只友安治郎君

(上加茂村)

君は安政四年十二月廣平氏の四男として生る、家代々農を業とす、家業の傍ら選ばれて村會議員と爲り、部落長と爲り

神社寺院の總代と爲り、又自警團長と爲り、地方の公務に參加して貢獻する所多し、上加茂村公有林野の統一に際し隣村各部落と入會權の交錯せるあり、之が解決に當り君青柳部落の爲めに、挺身奔走して利權の擁護に努め多大の效績を挙げたる事は、今に普く世人の知る所なり。配は東加茂村公郷の山口氏、貳男貳女皆



婚嫁を了る令孫瑤氏は岡山師範學校の出身なり。

在郷軍人會分會長  
豫備陸軍歩兵少尉

正八位 岡田正一君

(西加茂村)

君は明治三十四年八月二十二日勝田郡北和氣村山本常太郎氏の二男に生る、天資温厚着實なり、大正九年勝間田農林學校を出で、小學校訓導奉職中、陸軍の召に應じ全十年濱田歩

員議會村



君市鶴小

(村出羽)

嚴父は利吉氏、君は長男にして明治十四年十一月二十八日に



兵第二十一聯隊に入り全十四年歩兵少尉に任ぜられ正八位に叙せらる、退て加茂小學校に復職し宇野分校主任となる、傍ら西加茂村在郷軍人分會長として活躍し前途を囑目せらる。

員議會町



君則美戸廣

(町茂加)

生る、後同姓重治郎氏の養子となり家を嗣ぐ、代々農業にして地方の有力者なり、君郷學を了へ家業に精勵して産を増殖し傍ら部落長より進て村會議員となる、其他畜産、木炭、道路、山林の各委員神社總代として村事に盡し農産業の振興に寄與する處大なりと云ふ、配は富村池田氏四男三女あり。

君は明治二十五年二月十八日生る、嚴君を儀太郎と云ふ、君は其長男なり、農業に従事し地方に於て信用あり、青年團支部長を勤め大正元年歩兵として鳥取歩兵第四十聯隊に入隊し上等兵と爲り滿期歸村す、爾後部落惣代、部落長、神社總

代、區長、衛生委員、畜産改良組合長等の名譽職に擧げられ  
尋て町會議員となり地方の公共に盡力せり、配は村内の政宗  
氏二男二女あり。

元村會議員



椋代五品君郎 (村野芳)

君は小治郎氏の二男に生れ同姓喜會治氏の養子となる、千  
之小學校を出で農事に精勵して産を蓄へ村閭の信頼あり、大  
正七年六月村會員となり土木當設委員、山林委員として村治  
に盡し退て耕地整理組合評議員、村農會總代、衛生委員、寺  
院總代となり公共に盡力して現今に至る。配は中谷村山崎氏  
三男一女あり。

元村會議員 只友芳 穂君 (上加茂村)

嚴父を初太郎と云ふ、君は其武男なり明治九年六月二十日  
に生る家世々農を業とす、明治三十九年雄志を抱て米國「カ  
リホルニヤ」州サクラメンにて至り、農園並果樹園を經營し、  
大正十四年歸朝  
の後農事に従  
ひ、傍ら村會議  
員、農會評議員  
其他公私團體の  
役員と爲る。配  
は峯平氏勝田郡  
高取村の人一男  
あり、名を一富



精農者 片山誠道君 (高野村)

家祖は地方の舊家にして代々農を業となし、村上流の資を



の産を繼ぎ専ら農事の改良發展に努力し傍ら畜産改良の熱心  
家なり、配は大坂片山一太郎氏の長女にして一男一女あ  
り。

門閥家元村助役 小鴨克元君 (香々美北村)

家祖は伯州羽衣石の城主南條伯耆守弟小鴨三郎左衛門源元  
清に出で天正年間美作に轉住す。先考名を藤逸と稱し歴代庄  
屋を勤めたる名族なり。君は明治三十五年十二月九日二男に  
生る、資性活潑にして奮闘家たり、郷學を終へ後青年團長と

なり尋で信用組合に入り其才腕を振ふ、昭和四年選ばれて村  
會議員となり同  
六年少壯にして  
村助役に進み村  
政に參與せしが  
今は退て家に在  
り配は東一宮村  
太田氏其間貳女  
を擧ぐ。



役入牧 浦三幸君 等八動 (村津奥)

嚴君を孝一郎と稱し地方の名族なり、嘗て日露の戦役に出

証し戦功を以て勳八等に叙せらる、後村會議員として村政に參與す、君は明治三十七年十月四日其長男に生る、郷學を了へ家事に従事し傍ら青年團副團長となり青年指導の任に當たる、後中水電氣株式會社業務員となり退て昭和七年九月村收入役となり今日に及ぶ、資性濃厚熱心にして村民の信賴厚く、實には模範青年として郡聯合青年團長より表彰せらると曰ふ母堂は村内田中宇一郎氏の妹なり。

を終へ青年團幹部、消防組小頭、自警團長、農會惣代、部落會計等の職を兼務し、昭和八年四月村會議員に當選し村の自治に貢獻す、配は大野村中谷氏、二男三女あり長男は家業に従事し次男は大阪弘文社に勤務す。

村會議員



田後嘉一君 (村北美々香)

嚴君を定太郎と稱す、代々農を以つて家業となし、村上流の産を有す。君明治廿二年九月十五日其の長男に生る、郷學

先考を友治郎と稱し、代々農を本業となす、君は明治四年十月十八日に生る、資性濃厚にして村民の信賴厚し、郷學修了の後家業に従事し、選ばれて村會議員たること三期に連續す、其他部落惣代、神社、寺院惣代、或は學務委員、信用組合理事、會計検査員として地方の功績著しからず、大正十一

濟世委員



小林重吉君 (村波阿)

年三月濟世委員を囑託せられ爾來濟世事業に力を效し、以て今日に至る、配は村内山本氏四男二女あり。

富購買販賣組合專務理事



山崎横太郎君 (村富)

祖考を六右衛門と稱し代々庄屋を勤めし家柄にして先考を徳助氏と云ふ君は武男にして明治十年五月三日に生る、郷學を了へて家業に従事し、明治四十四年五月信用購買販賣組合の創立と共に専務理事となり業務監掌經營の任に當る、大正十四年選ばれて村會議員となり、又衛生組合長として村事公共に盡瘁せしが今は退て組合に専屬す君資性濃厚實直にして地方の聲望頗る高し、配は大野村目下氏三男三女あり。

精農家



鍋島岸太郎君 (村茂加東)

故鍋島新作氏は嘗て收入役、助役、村會議員を経て村長となり三期に亘る自治の功勞者なり、家代々庄屋を勤め農を以て業となす、君は明治廿四年三月四日西加茂村山本家に生れ、入りて養子となる、郷學を卒へ農村更正の第一線に立ち農事に精勵して實踐躬行範を地方に示し産を増殖す、傍ら村公共團體の役員として村事公同に活動す、一男二女を擧ぐ男は鐵道省知和驛に勤務す。

村會議員

竹田龜市君

(高田村)

君は竹田虎治郎氏の長男にして明治三十年五月六日生る、



代々農を以つて業となす、小學校卒業後大正六年鳥取歩兵第四十聯隊に入營し善行証書を以て退營す、後青年團役員、在郷軍人分會評議員、消防部長となる、兼に農家組合の創立するや推されて組合長となり、昭和八年村會議員に當選し村事に貢献して今日に至る、配は勝田郡高取村下山氏五男一女あり。

元村會議員 中島義一君

(田邑村)

君は鶴治郎氏の長男なり、代々農業を營む、郷學を了へ津山の儒者菅沼定光師に就て漢籍を修め、自村収入役となる後岡山縣巡查となり、退職して家業に精勵し現今に至る、傍ら村會議員、農會評議員、衛生組長、消防部長、神社寺院の



惣代として村治に貢献し昭和七年信用組合創立二十周年記念に際し役員功勞者として表彰せられ銀時計一個を拜受す、配は赤木氏勝田郡北和氣村の人、男二女あり長は朝鮮總督府警察官に次は津山中學を出で吳海軍工廠に勤務す。長二女共に津山高等女學校の出

元在郷軍人分會長 勳八等 岡田一二君

(加茂町)

君は明治十四年三月二十三日西加茂村行重に生る、家世々楡井村庄屋を勤む、君小學校を終へ、明治三十四年福知山工兵第十大隊に入り工兵上等兵となる、日露の役第三軍野戰兵站電信隊に編入せられ功を以て勳八等に叙せらる、歸郷後家業に従事し傍ら在郷軍人分會長及其他の役員として地方公

尉少兵歩軍陸備豫



君夫昭浦三 位八正 (村茂加西)



に盡す、配は郡内神庭村の谷名氏三男あり、長は實業補習學校に奉職し、次は津中出身目下ジャワ島に方て貿易に従事し、三は津山中學の出身なり。

者動殊人軍郷在



君八元田福 等八動七功 (村田若東)

嚴父力之助氏は曾て輜重兵として日清戰役の偉動者なり、君は明治四十五年八月二十四日第二男に生る、昭和六年現役志願に因り岡山歩兵第十聯隊に入り上等兵となる、滿洲事變に出征し、南滿洲鐵道及北寧奉山鐵道沿線の匪賊討伐に加は

君は明治三十三年八月十四日都窪郡中洲村原田家に生れ後に哲雄氏の養嗣子となる、東京々北中學より進で中央大學を出で、一年志願兵として福知山歩兵聯隊に入り、陸軍歩兵少尉に任ぜられ正八位に叙せらる、退て養家の産を繼ぎ傍ら在郷軍人分會副長、消防部長、社會教育委員、産業組合評議員として活躍し近郷の信望高し

り、次でハルピン附近の事變、吉林省、熱河省の掃討作戰に  
参加し伍長勤務となり内地に凱旋す戦功に依り勳八等白色桐  
葉章併功七級金鷄章を下賜せらる、滿期後家業に精勵して地  
方の範を示す令兄正三氏亦後備歩兵上等兵にして下士適任証  
書を有すと云ふ。

正三年村會議員に當選す、其他信用組合監事、養蠶組合長、  
農會總代等の名譽職に任じて地方の聲望あり、配は西加茂村  
有岡氏より入る二男四女あり。

元村會議員



勳八等 池田一郎 君  
(村茂加上)

先考を友治氏と云ふ、君は貳男にして明治十七年二月二十  
五日生る、林園書院に漢籍を學び、後歩兵として鳥取聯隊に  
入り日露戰役に應召す、清國柳樹屯に上陸し鉄峯守備とな  
る、戰功に依り勳八等に叙せらる、凱旋後家業に従事し、大

濟世委員



勳八等 瀨谷喜逸 君  
(村北美々香)

會祖惣右工門氏は庄屋を勤め祖考宗五郎氏は戸長となり先  
考新七氏は篤農家として知らる、君は明治六年五月七日を以  
つて生る、資性温厚篤實にして聲望あり、明治廿六年大阪野  
戰砲兵第四聯隊に入り下士適任証及び善行証書を受く、日清  
戰役に出征し尋で台灣討伐に参加し各地に轉戦して戰功あり  
歸郷後勸善社々長、消防組頭、農會評議員、全副會長、土大宮改

代横野酒造合名會社  
代表社員



實近伊八郎 君  
(村田高)

先考を傳八氏と云ふ地方の舊家なり、君は其長男にして文  
久元年を以て上横野に生る、家代々農を業とし地方上流の資  
産を有し傍ら酒造業を營む、天資温厚にして篤實なり、青  
年時代より祖業を助けて精勵怠らず明治初年以來地方實業家  
として奮闘努力益々産を増殖し以て今日に及べり、曩に選ば  
れて村會議員となり村治に貢献せしこと三期、今や晩年世事

收入役



有木勝見 君  
(村宮一)

父を源太郎と稱し、代々農を以て家業となす、君は其長男  
にして明治四十一年九月十五日呱呱の聲を擧ぐ、郷學を了へ  
て家業に従事す、傍ら青年團長、在郷軍人分會評議員其の他  
各種團體の名譽職を兼ね村公共の事業に盡瘁す、曩に村書記  
より進で收入役となり村の財政に寄與する處多し、君天資温  
厚にして地方に信望厚く前途有爲の青年たり。

委員、社寺惣代、濟世委員として村公同に盡し、大正八年選  
ばれて村會議員となり村政に參與すること貳期地方自治の功  
勞者なり。配は香々美南村寺和田坂田氏貳男貳女あり、長男  
は西大寺警察署に勤め、次男は家業に従事し女は他に嫁す。

を謝し専ら社寺總代として神事、法燈に勤め地方の徳望をな  
り。配は東一宮村永禮啓四郎氏の長女にして貳男貳女あり、  
君園藝に趣味を有し以て余生を娛む。

員議會村



野井龍逸君

(村北美々香)

祖考を喜代藏氏と云ひ先考を喜一郎氏と云ふ、香々美南村泰野家より入りて養子となり野井姓を冒す、君は明治十六年一月長男に生る、郷學を修了して青年團の幹部となり又部落長、寺院惣代、自警團長等を兼務す、昭和八年選ばれて村會議員となり特に縣村道路の改修に盡せし功績少なからず又地方産業の振興に努め農事の熱心家として村の表彰を受く。配は高田村前原氏一男二女あり。

在郷軍人分會長

中江榮三君

(中谷村)

君は明治三十年四月三日村内入に生る、小學校を卒業して

鳥取歩兵第四十聯隊に入營し歩兵上等兵となる、滿期後家業に従事し、傍ら在郷軍人分會長、消防組副組頭を勤め、青年團指導の中堅



に出で、二は津山商業、三は小

學校に在學し他は幼少なり。

元小學校長

太田誠意君

(泉村)

太田家は西屋城の家臣赤崎某の末裔にして世々農を業となす、父壽太郎氏は日清、日露の役に従軍して戦功あり君は其長男にして明治三十四年一月十八日泉村に生る、大正十年三月岡山師範學校を卒業し、久米郡加美、龍山の兩小學校訓導を経て昭和二年三月和氣郡三保小學校長となり更に吉田郡日



謝狀を拜受せり、全十二年三月三十日依願退職す。配は富村築山氏一男三女を擧ぐ。

臨時收入役

石原高四郎君

(阿波村)

君は嘗て信用組合理事として産業の發展に貢献せし倉吉氏を父とす、明治三十一年十一月二十八日長男に生る、郷學を修了して家業に従事す、大正七年鳥取歩兵第四十聯隊に入り退營後青年團幹部、消防組部長として指導の任を全ふし、其

邑小學校訓導に轉じ、同七年三月越畑小學校長に榮轉す、爾

來格勤精勵至誠以て兒童を撫育し父兄の信頼厚し、昭和二年舊任地龍山村より學校教育並に青年團、婦人會の指導啓發に盡せし故を以つて感

他區長、統計調査委員を兼務し、昭和七年十月村會議員に當



選す、同九年臨時收入役に擧げられ村財政の經理を掌り地方に聲望あり、配は上加茂村菅谷氏四男一女を擧ぐ。

員議會村



土居貢君

(村北美々香)

君は東加茂村志水伸四郎氏の二男にして明治廿三年七月十四日に生る、全四十五年養子として香々美北村土居家に入り其の姓を冒す、郷學を修了して浮田製材工場に勤め業務主任として活動し、大正九年辞して現地に製材工場を起し業務日に盛なり、昭和八年選ばれて村會議員となり村政に參與す、傍ら常設委員を兼ね地方の聲望厚し、配は家女にして一男四女有り



小椋權十郎君 (村波阿)

嚴父島治郎氏は曾て名譽職を勤め地方に聲望あり、君は其二男にして明治七年三月八日に生る、郷學を修了して小學校に教鞭を執ること多年なり、大正二年十月村收入役に擧げられ財政經理の運用に關與し大正六年村會議員に當選し以て今



寺坂博史君 (村茂加東)

家祖は中庄屋の名門にして嚴父を莊太氏と云ふ代々農業に精勵して地方屈指の産を有す、君は明治三十八年一月十五日其の長男に生る、勝間田農林學校を出で、多年土居銀行、山陽銀行を歴任し、退いて家業に従事し今日に至る、其の間青年團長、農家組合長となり地方の信賴厚く前途有爲の青年なり、配は勝田郡河邊村山本氏其間二女を擧ぐ。

村會議員 小林龜市君 (阿波村)



嚴父友治郎氏は曾て地方の名譽職を勤む、君は其二男にして明治十五年十月七日を以て生る、郷學を卒へ消防小頭となり、青年團の幹部として指導の任に當る、後選ばれて村會議員たること三期にして現今に至る、其他林業委員、補習學校商議員、電燈組合理事、信用組合評議員、區長、自警團長となり地方公事に貢獻す、配は上加茂村岡氏の女にして一男二女あり。

在郷軍人分會長



末澤信夫君 (村田苦東)

嚴父初太郎氏は多年村會議員として村政に參與す、家號を野邊山と稱し地方の舊家なり、君は其長男にして明治三十八年七月六日を以て生る、郷學を修了し進で山本實業學校を卒業す、大正十五年姫路騎兵第十聯隊に入り上等兵に進み善行証書を得て歸隊除隊す昭和四年青年訓練所指導員を囑託せられ同六年消防組小頭となり、同七年大日本武徳會劍道一級に進み、同八年帝國在郷軍人分會長となり現今に活動す、資性濃厚にして家業に精勵し地方の模範青年たり、配は芳野村小原爲三郎氏の貳女なり其間二女あり。

未生流花道 藤田熊市君 (大野村) 諸國總會頭師範代

嚴父は久田村正躰俊藏氏の三男より入りて藤田氏の姓を冒





す、君は長男にして明治十三年二月三日を以て生る郷學を了  
 へ岸川樂市、定平支甫に就て花道の研究を爲し後大阪に出で家元肥原庸市に就て蘊奥を究め免許哲傳を受け諸國總會頭師範代となる次で昭和六年新花准教授の免許を受け地方補習學校の囑託教師となる、傍ら村會議員、農會總代、補習學校商議員として村事に貢献す、配は久米郡大井東村岡田氏一男一女あり。

元警部補 福田繁夫君 (加茂町)

嚴父名は光五郎、家世々農を業とす、明治二十九年十二月二十日を以て戸賀に生る、大正十年二月兵庫縣巡查を拜命し、全十三年五月巡查部長に進む、十五年八月警部特別任用



考試々驗に合格し、九月普通文官試験に及第、昭和元年十二月兵庫縣警部補と爲る、同八年三月家事を以て退職郷に歸り爾來田園の人と爲り農事に精勵して勤儉産を治め地方の聲望を集めつゝあり、配は町内山本佳保の女一男一女あり。

元村會議員



井場爲佐君 (村野芳)

年、退て家業に従事す、後村會議員となり、村政に參與し其他各種の名譽職を兼任して村事に盡し、現時は穀物生産検査員となり、農村産業の改良に貢献す、配は谷口氏久米郡加美村の人なり、其間三男二女を擧ぐ、長子剛氏は岡山師範出身の小學校訓導にして、久田村小學校に奉職し、他は中學或は高女の出身なり、

穀物生産検査員



井上林作君 (村郷)

嚴父は鉄五郎氏、祖考は目崎城主浦山左馬介行信の末裔なりと云ふ、家代々農を業とす、君は長男なり、郷學を了へ津山本源寺住職に漢籍を學び、津山區裁判所に勤務すること數

岡山縣吏員



高橋正平君 (村野高)

君は高橋筆藏氏の四男にして哲衛氏の分家なり、明治二十二年四月十二日生誕す、家代々農業なり、全四十二年鳥取歩兵第四十聯隊に入り憲兵に轉科して上等兵に進み舞鶴憲兵分隊附となる、大正三年日獨戰役に出征して戦功あり、勳八等

に叙せらる、全八年滿期歸郷し家業に従事す、全十年岡山縣穀物検査員を拜命して現今に至る、配は津山市上之町下山氏二男四女あり長次女共に女學校に在學し、他は小學校教育中なり。

元村會議員



中井石三郎

(村茂加上)

始祖は楠公の末裔にして此地に歸農すと云へり、君は明治七年十二月十六日加茂町の中庄屋安東家に生れ養子として中井姓を冒す、家代々農事に精勵して産を有し、曾て村會議員たること二期其他農會總代、區長、神社寺院の總代として共に盡力せしが明治三十八年單獨北米合衆國に渡り農業に従事す、配は家女にして令孫家を繼ぐ。

農家組合長



武本太郎 (左)

(村出羽)

先考岩太郎氏は曾て近衛歩兵軍曹にして、日露の役に出征し勲功あり、叙せらる時會々獨乙親王カールス殿

教育者



大澤胤君

(村谷中)

先考は赤木胤俊氏、曾て村収入役より助役に進み更に村長となる、村政に參與すること二十余年、自治の功勞者なり、君は二男にして明治二十三年八月九日生誕す、天資温厚謹直なり大正元年村内大澤氏に養はれ其産を襲ぐ、郷學を了へ作西教員養成所を出で自村小學校に教鞭を執る、傍ら文房具雜貨店を經營し地方の信望あり、配は村内岡田氏四男二女あり

精農者

牧宅

一君

(高野村)

君は牧源吉氏の長男にして明治十二年三月生誕す、天資温厚着實なり、郷學終了後父を助けて家業に従事し、地方精農

の模範者なり、就中畜産改良の熱心家にして地方畜産改良組合の役員として



盡力し信用厚し配は村内牧清太郎氏の二女なり、長子孟氏は安東縣巡查部長に就任し長女は他家に歸き、令弟治平氏は朝鮮

郡廳に勤務す。

診療所長



奥田均君

(村田高)

嚴父は順平と稱し、代々農を家業となす、嘗て米穀生産検査員たり、君は明治四十四年八月三日共の二男として高田村大篠に生る、津山中學校より進で東京醫學專門學校を卒業し、昭和八年六月富村診療所長となる、爾來東都新進の醫術を以て地方診療に盡し濟世事業に貢献する處少なからず、母は村内藤田家より入り家兄は津山中學校出身にして岡山師範第二部を了へ富村大分教場の主席訓導たり君忙中閑を偷みて園藝を楽しむ。

長校學小名成



君一貞多木 (村庭神)

嚴父を春平氏と云ふ、君は三男にして明治三十三年二月五

日津山市川崎に生る、大正七年三月津山中學を卒業し岡山師範第二部を出て泉小學校訓導となり、轉じて清泉、高田兩校に教鞭を執る、昭和五年三月成名小學校々長に任ぜられ現今に至る、爲人謹直清廉にして人格高く地方に聲望あり、配は神庭村菅田氏の女なり先ち歿す、二男一女あり。

尉少兵步備豫



君一山下位八正 (村倉高)

嚴君は楠右衛門、上流の産を有し村の名望あり、君は長男にして明治三十三年十月二十七日出生す、勝間田農林を出で一年志願兵として松江歩兵第六十三聯隊に入り、歩兵少尉正八位に叙せらる、退て自村農會技術員として地方産業の振興

員議會村



君八郎太苺草 (村邑田)

君は善吾氏の長男にして明治十六年十二月八日生る、明治三十七年鳥取歩兵第四十聯隊に入り歩兵曹長に進む、大正三年退職郷に歸り農桑の業に従ふ、昭和八年六月村會議員に當選し以て現今に及ぶ、其他部落長、農會評議員、農家組合長、神社寺院の總代として地方の信頼あり、配は鳥取縣氣高郡鹿野町高田氏、一男三女あり。

に努力し其成績良好なり傍ら在郷軍人分會長、消防組頭として活動し前途有爲の良青年なり、配は一宮村桑山氏四男二女あり。

員議會村



君雄太三木仁 (村茂加西)

君の祖先は行重の中庄屋家藤逸氏二男の分家なり、先考を常藏氏と云ふ、君は其長男にして明治三十一年十月十七日に生る、天資諄朴なり、郷學を了へ家業に精勵して産を蓄ふ、業余青年團長、消防組部長として活躍し、昭和四年村會議員に當選す、傍ら農區長、神社寺院の總代として地方の信頼あり、配は勝田郡北和氣村赤木氏なり。

村會議員

内田榮四郎君

(阿波村)

嚴君を金藏と曰ふ君は明治十四年二月十一日西加茂村に生る、後本村に轉住し商業に従事す、昭和三年選ばれて村會議



年指導員、次子長夫は兵庫縣巡査となり明石署に勤務す。

員となり再選して現今に至る、其他商工組合副組合長、村農會惣代、森林組合惣代、第四區長として村治公同に盡せし功大に見るべきものあり、配は村内青山氏其間二男を擧ぐ長子初男は青年團長兼青

員議會村



君辨 右見佐 宇  
(村野芳)

君は植木虎藏氏の二男なり、明治十三年六月二十日に生る郷學を了へ興隆寺梅岡住職に就て漢籍を修め、全二十八年宇佐見新五郎氏の養子嗣となり其の姓を冒す、爾來農事に精勵し傍ら青年團支部長、消防組部長、部落管理者、農會總代の役員を経て昭和八年村會議員に當選し、勸業委員、豫防委員として村事に盡し現今に至る配は大野村時澤氏、一男あり陳正と曰ふ青年學校助教諭たり。

員議會村



君雄 哲 浦 三  
(村茂加西)

明治九年十月二十七日生る、家嚴重平氏の長男なり、新谷耕隱の塾に學び、家業に従來す近郷屈指の産を有せり、村會議員と爲ること三十年、農會評議員、森林組合理事、青年團

方の聲望あり、配は西村徳藏氏の二女なり、二男二女を擧ぐ。

員議會村元



君治 菊 藤 安  
(村 郷)

嚴父を直平氏と曰ふ、久米郡大井東村中尾家より安藤氏の養子となり姓を冒す兩家共地方の舊家なり、君は安政六年八月十一日長男に生る、郷學を終へ農事に精勵して産を治む、曾て村會議員として二十二年村治の功勞著なり、退て學務委員、小學校建築委員、水利組合員として村事公共に盡し地



(君郎治森江中 考先)

役人收村元

君公 江 中  
(村谷中)

嚴君森次郎氏は嘗て村收入役より助役に進み、村政に參劃すること多年、不幸病を得て斃る、君は其の長男にして明治四十五年一月十五日を以て生る、勝山中學校を出で昭和七年十一月村收入役に擧げられ村財政の事務に任せしが同十一年期滿退職し農長に従事す、傍ら青年團其他各種團體の幹部として前途を矚目せらる、配は久米郡打穴村横原氏、岡山女子師範を出で中谷小學校訓導たり。

家舊方地



君薰 岡  
(村茂加上)

家門は判納と稱し曾て村庄屋を勤めし舊家なり、先考を忠平氏と云ふ、君は明治二十七年四月十五日第四男に生る、郷學終了後舞鶴重砲兵大隊に入り上等兵となる、満期後家業に従事し資産を増殖す、傍ら青年團長、消防組部長、農區長、行政區長等の要務に任じ、地方の爲に活躍せらる、配は高野村牧久治郎氏の男女なり一男三女を擧ぐ。

青年團長

末澤 三平君

(東苦田村)

君は末澤辰四郎氏の長男にして明治四十三年六月一日に生る、天資温厚勤勉なり、代々農を以て業となす、小學校卒業

後勝間田農林學校に學び後家業に従事す、昭和九年選ばれて青年團長となり青年指導の中堅に活躍す、前途有爲の良青年なり、配は久米郡稻岡南村青北氏なり。



君久田 前  
(町茂加)

員査檢炭木



君一久田 前  
(町茂加)

君は明治二十二年一月二十日一郎氏の長男として生る、

受く、配は高田村永田氏三男一女あり、長子好一氏は東京京華中學及物理學校教諭たり。

者農精



君吉源 原延  
(村野高)

先考雪藏氏は農業の熱心家にして勤儉力行の人なり、君は長男にして明治元年三月二十九日に生る、天資温厚諄朴にして田圃に興味を有し、耕耘栽培努めて怠らず農事改良增收を只一の信念となし地方老農の稱あり、傍ら農會總代、信用組合評定委員として地方産業の發展に努め優良組合員の表彰を

長合組用信役入收村



君夫賤浦 三等八勤  
(村茂加西)

君は重平氏の二男なり、明治十七年二月十三日生誕す、後分家し農事に精勵して上流の産を有す、明治三十七年福知山工兵第十大隊に入り征露の役に従軍し各地に轉戦す、功に依り勳八等白色桐葉章を下賜せらる、解隊後家業に従事し産を治む、大正十一年村収入役に當選し次で村信用組合長となり現今に至る、地方理財家の稱あり、長子は勝山中學より進で早稻田大學在學中なり。

青年學年校指導員



本多爲一君 等七勳

(村倉高)

嚴父富藏氏は勤儉産を治め地方精農家を以て知らる、君は長男にして明治十九年七月十九日出生す、三十八年現役志願に依り姫路歩兵第十聯隊に入り曹長となり満期す、大正七年西比利亞出兵に當り陸上輸卒隊小隊長として戦功あり、歩兵特務曹長に任ぜられ勳七等青色桐葉章を拜受す、凱旋後家業の傍ら村青年訓練所指導員として多年教化の任に當り、軍事教育上功績顯著なりとす、其他信用組合監事として地方の信望あり、配は勝田郡廣野村中島氏、六男二女あり。

村會議員

坂口説治郎君

(芳野村)



嚴父は徳市氏代々農業なり、君は明治二十二年六月十六日長男に生る、郷學を了へ家業に従事す、傍ら農區長、衛生副組合長、部落總代、信用組合購販實行委員、養蠶組合評議員、農家組合長、芳野實行組合理事等の役員を経て昭和八年六月村會議員となり村治公同に盡力す、配は久米郡佐良山村山根嘉太郎氏二女其間四男四女あり。

嚴父は徳市氏代々農業なり、君は明治二十二年六月十六日長男に生る、郷學を了へ家業に従事す、傍ら農區長、衛生副組合長、部落總代、信用組合購販實行委員、養蠶組合評議員、農家組合長、芳野實行組合理事等の役員を経て昭和八年六月村會議員となり村治公同に盡力す、配は久米郡佐良山村山根嘉太郎氏二女其間四男四女あり。

元村會議員



山形又五郎君 等七勳

(村田苦東)

先考は甚吉氏、君は第五男にして、明治五年五月十五日に生る、全二十五年姫路歩兵第十聯隊に入り軍曹となる、退て家業に従事す、日清戦役の功に依り勳八等瑞寶章を下賜せられ又日露戦役に應召して後備歩兵第四十聯隊に入り大連に上陸各地に轉戦す、功に依り勳七等青色桐葉章併に免除恩給を拜受す、凱旋後村會議員、農會總代、信用組合理事、或は神社總代となり村公同に盡す、配は高野村香山氏にして一男三女あり、男英雄氏は陸軍主計大尉となり在天津北支駐屯軍司令部經理部課員たり。

元村會議員



岡田小三郎君

(村茂加西)

岡田家は地方の舊家にして、君は忠藏氏の二男なり、明治十年十一月二十日生誕す、郷學を了へ小學校教員より辞して家業に従事す、青年團長より進て村會議員たること三期、其他信用組合監事、養蠶實行組合長として村事公同に貢獻す、昭和七年東加茂、一宮間の縣道編入に當り君が盡力の功特に大なるものありと云ふ、業閑十七文字の風流を弄び幽翠庵、楓陰或は樊城と號す、最近句あり編者に似す(封を切れば香もある花の誘ひ文)、配は高野村保田氏二男三女あり。

元村會議員



池田 藤吉 君

(郷村)

先考は助五氏、久米郡大井東村安藤家より入りて養子嗣となり姓を冒す、君は第二男にして文久三年九月十三日に生る、代々農事に精勵して産を治め、傍ら村會議員となり村政に參與し十四ヶ年に達す退て信用組合評定委員衛生組合長、神社總代として盡力し地方精農家の定評あり、配は眞庭郡河内村橋川氏一女あり芳野村池田氏より養子を迎へて女に配す。

穀物検査員



牧 幾 一 君

(加茂町)

明治二十一年五月、日徳四郎氏の長男として生る、祖代は庄屋を勤めし地方の家柄なり、家業農事の傍ら、加茂町消防副組頭、青年團長、信用組合理事、養蠶組合評議員、農會總代、氏子總代等公私團體の役員となり地方公共の事に盡瘁すること多年なり、大正十四年以來穀物検査員として現今に至る、配は町内塔中の内田氏、一男四女あり長女は大坂高女を出て他家に嫁し次女は大坂藥學専門學校を卒業して大坂山田安民藥房藥劑師を勤め、他は幼なり。

縣吏員

山本 春吉 君

(上加茂村)

精農家



水 島 勝 治 郎 君

(田邑村)

君は義四郎氏の長男なり、明治五年三月十四日を以て生る天資磊落なり、家代々農を以て業となす、郷學終了後祖業を守り特に耕作改良增收に心をを用ひ功果大に見る可きものあり、明治四十一年選ばれて縣米穀生産検査員となり格勤精勵十九ヶ年に及ぶ、退て村農會技術員、農會總代農家組合長、消防組頭等の名譽職に貢獻し、地方の信用厚し、配は田口氏一宮村の人四男二女あり、長は大坂市電氣局に、次は大坂朝日新聞社に勵務せり。



嚴父季藏氏の長男にして明治二十六年十二月二十五日出生す、郷學を卒へ大正三年鳥取歩兵第四十聯隊に入り上等兵を命ぜらる、全四年青島守備軍に編入せられ、全五年滿期す、後家業に従事し産を治む、傍ら青年訓練所指導員、在郷軍人副分會長として活動し、現時穀物生産検査員として地方産業の振展に努む、配は

同姓山本氏二男あり。

畜産組合竹田支部長 藤田 一作 君

(大野村)

君は嘉十郎氏の長男なり明治十年一月十五日生誕す、郷學



を終へ家業に精勵して産を造る、傍ら村會議員として村政に  
參與し退て畜産  
組合竹田支部  
長、衛生組合長、  
水利組合長、信  
用組合理事、濟  
世委員として地  
方公共に貢獻せ  
らる、配は香々  
美南村宗安氏二

男一女あり。

精農者



君平利木藤  
(村野高)

寶泉寺住職



師岩誠場馬  
(村富)

君は岐阜縣加茂郡上米田村の人にして嚴父を清三郎と云ふ  
明治四十年十一月三日を以て生る、年十四歳にして臨濟宗大  
學々長松岡寛慶師に就て剃髮し十九歳にして愛知縣尾張一宮

君は良平氏の三男にして明治十二年七月二十四日村内山東  
に生る、代々農事に精勵して資産を増殖し地方の精農家以て  
稱せらる、資性温厚諄朴なり、業余農會總代、消防組幹部或  
は神社總代として村事公共に盡し、地方の信用厚し、配は一  
宮村武川氏なり、現今姫路市赤十字社病院事務長片山藤市氏  
は君の令弟なり。

村會議員



君市勘山西  
(村波阿)

嚴父を赤木晴藏と稱す、君は明治二十五年十月九日其の二  
男に生る、後西山淺治郎氏の養嗣子となる、嘗て青年團の幹  
部として指導の任に當り、又村役場書記として村務を掌り、  
後村會議員に選ばれて現今に至る、其他農會總代評議員、木  
炭組合代議員等を兼任し産業の振興に竭す處あり、資性活潑  
にして村の活動家なり、配は某氏一男二女を擧ぐ。

市佛敎専門學校に學ぶ、昭和五年業を卒へ更らに京都大本山  
妙心寺に參籠し全七年寶泉寺に晋山して法幢を顯へし以て今  
日に至る。

村會議員



君重國本栃 等八動  
(村富)

實父を難波卯太郎氏と云ふ、君は二男にして明治十五年十  
一月十五日に生る、後栃本直太郎氏の養嗣子となる、郷學を  
了へ農業に従事し、明治三十七年鳥取歩兵第四十聯隊に入營  
し、日露戰役に出征各地に轉戦す、功を以て勳八等に叙せら  
る、滿期後青年團、消防組の役員となり又産業基本調査委員  
となる、昭和四年村會議員に當選し今日に至る、其の間部落  
長、衛生組合長、信用組合理事、木炭組合役員、畜産組合副  
組合長として地方の信用厚し、配は奥津村田淵氏より入る。



長合組蠶養



君一力椋小  
(村波阿)

祖考仁左衛門氏は里正を勤め、先考繁治郎氏は村會議員として村政に參與せし家柄なり、君は明治二十三年三月三日共三男に生る、小學校卒業後福知山工兵第十大隊に入り、大正十四年歐洲大戰に参加す、退營後農業に従事し消防組小頭として青年指導の任に當る、昭和六年選ばれて養蠶實行組合長となり傍ら神社總代、區長又は信用組合理事を兼ね地方の活動家たり、配は同姓より入り二男三女を擧ぐ。

信用組合理事

久安浪治君

(香々美北村)

君は明治十年三月香々美南村坂田良藏氏の二男に生る、後

久安家の養嗣子となり其姓を付す、資性温厚篤實なり、郷學



君了へ農事に從事す、大正十四年村會議員に選ばれ村治に參與すること二期其他上木常設委員、國勢調査員、養蠶組合長、自衛團長、衛生委

員、信用組合理事等を兼務し村閭の信望あり、君に二男あり長は兵役を終へて農業に勵み、次は彦根高商を出で東京塩崎酒造會社に勤務す。

米穀検査員

前原

孟君

(高田村)

前原家は代々醫業を營み、祖考隆四郎氏に至る、先考彦四郎氏は農事に精勵して産を貯へ傍ら村會議員として多年村治に盡せし名門なり、君は明治二十四年六月一日其長男に生る資性温厚なり、津山中學校を出で専ら農桑に従事す、大正十

家農精



君逸助村田  
(村北美々香)

先考晋市氏は村用掛地籍取調係を勤む、君は明治六年三月



五年以來米穀検査員となり地方産業の振興に盡し又村内各種公共團体の幹部として活動す、配は西加茂村の名族仁木伊之七氏の二女なり其間三男二女を擧ぐ。

役助



君滋田赤  
(村庭神)

君の家は世々農を業とす、嚴父を歌治氏と曰ふ、明治二十二年七月八日其長男に生る、明治四十四年七月出で岡山縣、

十日其長男に生る、性質温厚にして農業に従ふ、郷學を終るや勸善社々長、大町消防組小頭となり、大正二年村會議員に當選し二期に及ぶ、其間學務委員、小學校建築委員、信用組合理事、自衛團長、農會惣代等を兼任し地方自治に盡すこと多大なり、昭和八年十二月消防事業の功勞者として大日本消防協會岡山支部長より感謝状を受く、配は富村垣内氏二男あり、長男忠義家を繼ぎ、二男治利は岡山縣警察部特別高等科に勤務す。

巡查となり、大正六年警部考試に合格し、全八年警部補と爲り、岡山警察署に勤務す、不幸母堂の逝去に會ひ他郷に在るを許さず、壯志一蹶遂に辭職して家に歸り津山町役場に勤務す、昭和二年居村役場に入り七年助役に進み以て今日に至る配は舊津山藩士小枝氏の女、三男二女あり、長男は某高等學校の出身なりと云ふ。

學校を出て、昭和四年村會議員となり、又村衛生副組合長として村治に貢献し現時に至る、配は湯淺氏二男一女あり。

元村會議員



岡田篤彌君 (村野大)

嚴君林兵衛氏は漢詩に長じ曾て丹後天橋立に私塾を開き子弟を教養せりと曰ふ、明治三十三年久米郡大井東村より此地に來り農桑に従事す、後議員たること數期に及ぶ、君は長男にして明治二十八年四月十五日を以て生る、大正二年津山中

君は高橋秀男氏宗祖和平氏の分家なり、地方の舊家にして先考光治郎氏は曾て村會議員を勤む、君は其長男なり、明治十八年四月二十九日に生る、郷學を了へ高橋泉山に學ぶ、明治三十六年高倉小學校教員となり、爾來加茂、高野、泉、高田、清泉の各校に教鞭を執り、三十一年にして退職し郷里の閑地に生を養ひ悠々自適す、配は久米郡加美村稻岡氏三男一女あり、長子は岡山縣巡查となり、二子は津山稅務署に勤

元教育者



高橋喬君 (村野高)

務し、三子は津山商業に在學し、女は看護婦なり。

穀物檢査員



垂井雅一君 (村茂加西)

嚴君を多藏と曰ふ、明治九年五月一日、其長男に生る、家代々中庄屋を勤め、其分家として祖父の代まで五世庄屋たり明治二十九年十二月第十師團騎兵聯隊に入り、日露の役に從軍して騎兵伍長と爲り各地に轉戦して功あり勳八等に叙せらる、解隊後村に歸り家業に従事し消防組頭及在郷軍人分會長と爲る、大正六年六月岡山縣穀物檢査並移出檢査員と爲り、以て今日に至る、傍ら寺總代を兼ね、同胞三人皆兵役に服し賞勳局より褒賞を受けしといふ。

元軍人分會長



日笠和十郎君 (村邑田)

君は嘉十郎氏の長男にして郷學終了後鳥取歩兵第四十聯隊に入り計手となる、滿期後稼穡の業を守り傍ら在郷軍人分會長、信用組合監事、農會總代、土木常設委員、農家組合長等の名譽職に任じ村治に貢献せり、君特に劍道に長じ圍碁、俳句に興味を有す曰く(發心の寒念佛や月冴ゆる)配は高倉村高山氏二男二女あり。

元村會議員

萬藏君 (加茂町)

嚴君を數平と曰ふ、世々農を業とす、君は文久元年六月九



日長男として生る、家業に精勵し家運の發展に努め、傍ら神社寺院の總代として三十餘年の間神佛に奉仕し又村會議員と爲り、道路の開通に、避病院の建設に、基本財産の造成に、村當局を補佐して功勞尠からず、業余易學に興味を有し併せて家相學を研究せり配は勝田郡新野村田氏三男一女あり、皆出て、實業に従事せり。

縣吏員 内田濱市君 (上加茂村)

同家は地方の舊家にして連綿二十一代に至ると云ふ、嚴父は鹿五郎氏君は二男にして明治三十一年八月二十二日生誕す、郷學を卒へ農業に従事し罕に觀る勤強家なり、昭和六年



三男三女を擧ぐ。

木炭検査員となり、地方産業の開發に活動す、傍ら經濟更正委員、其他の役員を兼ね村公同に盡力す、配は鳥取縣八頭郡社村山本家より入り

青年團支部長



石田邑治君 (村野芳)

第四軍の編成と共に中央軍として北進し栃木城、蒙山站、早飯屯、遼陽、三塊石山より進て柳匠屯の危地を脱し奉天の大會戰に奮闘して聯隊長の感狀を受く、爾來各地守備の任に就き明治三十九年二月凱旋解隊となる、功に依り勳八等白色桐葉章及功七級金鷄章を下賜せらる、今猶郷土に齡壽を全ふし農業に精勵せり、配は田邑村宮岡氏にして三男四女あり。

在郷軍人殊勲者



勳功七等 日下照一君 (村田苦東)

君は藤四郎氏の三男にして明治十三年十月十三日に生る、鳥取歩兵第四十聯隊に入り、滿期後農業に従事す、日露戰役に應召出征し、獨立第十師團に加はり清國南尖嘴に上陸し後

元村會議員



武本賢之助君 (村富)

遠祖は毛利輝元の下臣にして久米郡岩谷城に尼子を滔れたる軍功者にして天正年間久田村に移り更に此地に住すと曰ふ地方の名族なり、祖父を鹿之助と稱す、先考佐四郎氏は久米

嚴父は久米郡吉岡村小瀬宇左衛門氏、祖代は庄屋家なり、君は第六男にして明治十八年九月十八日生誕す、全三十八年鳥取歩兵第四十聯隊に入り退て石田順藏氏の養子嗣となり産を繼ぐ、爾來農區長自警團長、青年團支部長、統計調査員、衛生委員として村事に盡力す、配は久米郡倭文東村松岡氏一男五女あり、因に記す當養父の弟仙助竹内横太郎の廢家を再興し、更に村内眞加部岡氏其後を襲ぐ。竹内氏は久米郡鶴鳴城主塀和八郎爲長の苗裔なりと云ふ。

郡宮部黒田家より入りて武本氏の養子となる、君は明治二十七年一月四日其の長男に生る、岡山商業學校を卒業し、後東京野澤組本店事務員となり、四十五年郷里に歸り、鐵道省用材請負業に従事し京阪神地に活躍して大々的輸出取引をなし業務日に盛なりと云ふ。大正十年選ばれて村會議員となり村政に參與し二期にして退く、君資性敏捷にして有爲の青年實業家なり、配は郷村日笠氏二男一女を擧ぐ。

事に従事し、同三十四年消防部長となる、同三十六年台灣總督府巡查となり大正二年巡查部長に進み多年職務精勵の功に依り銀盃一個を拜受す、警察官界生活實に廿三年其の功績洵に顯著なり十四年職を辞して故山に歸り農事に従事す、君資性嚴直劍道初段の階級を有すと云ふ、配は勝田郡豊田村粟井氏の女にして長男を英夫と呼ぶ。

精農者



鍋島 仲四郎

(村茂加東)

嚴父孫逸氏は年十九歳にして庄屋を勤め、尋で戸長となり後村會議員たること三期にして、地方自治の功勞甚大なり、君は其の長男にして明治四年九月二日誕生す、郷學を了へ家

先考を福田與十郎と稱し、明治四十二年一月一日其長男に生る、家代々農を以て業とし上流の産を有す。資性温厚にして熱誠の人なり、勝間田農林學校を卒業し野戰砲兵として姫路砲兵第十聯隊に入り伍長となる、甚當歸郷して専ら農業に

元青年團長



福田 茂君

(村田高)

精勵す、傍ら村青年團長、若田郡聯合青年團第二分區長、在郷軍人分會監事等の役員に擧げられ地方公共に活躍し青年中堅の人物なり。配は眞庭郡美川村川西氏一男一女あり。

會惣代、消防組部長等の任に當たる、志操堅實勤勉にして、郷黨の信頼高し、配は田島村田島氏一男を擧ぐ猶幼なり。

蠶種製業者



檜尾 彌一郎

(村谷中)

嚴君喜三郎氏は勝田郡公文村の人なり、明治の初年この地に住す地方の名族にして山緒ある舊家なりと云ふ、君は其の長男にして明治十六年八月一日に生る郷學を卒へ、年十五歳にして勞役に従事し、刻苦精勵産を積む、後養蠶に志し、研鑽怠らず遂に養蠶教師となる、浮田製糸會社、中谷村養蠶組合、久米郡役所に勤務し大正六年退て自宅に蠶種製蠶業を興し以て今日に至る、其の間白鷺團長、部落長、神社惣代、農

先考を重吉と稱し嘗て村會議員又は社寺の總代を勤めて聲望あり、祖先是庄屋を勤めし名門なり、君は慶應三年八月十三日其の二男として生る資性温厚にして村民の信頼厚く、明治三十六年選ばれて村宰となる、全三十七年以來數十萬本の植樹をなし其の反別實に百數十町歩に及ぶ地方罕觀の植林家なり、配は東加茂村小玉氏一男四女あり、長男重男氏勝間田農林學校を出で更に岡山縣農事試驗場に入りて研究を重ね目下自村の技術員たり。

植林家



小椋 平吉君

(村波阿)

村在郷軍人會議分員



永禮楠君

(東一宮村)

嚴父を啓四郎と稱し多年村長の職に在り、日露戦役の際村に於ける軍事後援者として勳七等青色桐葉章を拜受す、君は明治三十一年二月八日其三男に生る、郷學を了へ鳥取歩兵第四十聯隊に入り歩兵上等兵となる、退營後父祖の業を助け、傍ら青年團長、消防部長として才腕を揮ふ、昭和九年選ばれて村會議員となり、村治に貢献す、其の間學務委員、在郷軍人分會長として活躍し、同十年九月帝國在郷軍人會長より功勞章を授けらる、同十一年拔擢伍長に進級す、配は一宮村清水氏二男一女あり長男は大連市實業界に在り。

村會議員

坂出森一君

(東一宮村)

先考は和市氏、多年の村會議員として村治上の功勞者なり君は二男にして代々農を以て業となす、明治三十八年鳥取歩兵第四十聯隊に入り歩兵軍曹に進み滿洲守備として派遣せられ各地に駐劄す滿期後大正十四年村會議員に選ばれ爾來連續當選して村治に



厚熱心にして地方の信頼あり、配は村林氏二男四女あり。

養蠶技術員

小林幹君

(泉村)

嚴父は香々美北村利岡善太郎氏、君は明治三十一年七月一

日に生る、後泉村小林勘藏氏の養子となる、同家は代々農事に精勵して上流の産を有し地方の名門なり、君



岡山縣蠶業試驗場を卒業し、大正十五年小田郡川面村蠶種製造所に勤務し、全年七月岡山縣蠶

業取締所勝山支所技手となり、爾來各地の養蠶組合技術員として遍歴し、昭和九年四月富村養蠶實行組合技術員となり、今や轉じて上齊原に就任す、地方蠶業の實験家なり、配は家女にして一男二女あり。

敬神家

杉山文一君

(田島村)

杉山氏は地方の舊家にして先考を爲藏氏と云ふ君は明治十七年四月二十五日を以て生る資性剛放磊落なり、郷學を了へ

明治四十一年奈良縣巡查となり格勳精勵二十有年に達す、其間行政警察功勞者とし又殺人強盜放火窃盜等の檢擧により



屢々内務大臣或は縣知事より賜賞を受く目下退職郷に歸り、茶花骨董に余生を贈り敬神崇祖の念特に厚し、配は郡内泉村宗森氏一男一女あり

長男は高等工業電氣科を出て横須賀海軍工廠に勤務し、長女は高等女學校より進で東京專門學校に在學せり。

精農家

鳥取道治郎君

(大野村)

祖考は庄屋を勤め、先考勘六氏は農業に従事し傍ら公共の名譽職に任じて地方の有力家なり、君は其長男にして明治八年三月十日生誕す、郷學を了へ父祖の業を助けて地方精農家を以て評せらる、専ら子女の教養に心を用ひ兄弟皆秀才にし



て最高の教育學府を出て令弟久志氏は海軍々醫中將に、二男良平氏は滿洲撫順中學校教諭に或は醫師に又實業家として、國家社會に貢獻せらる、配は山田氏勝田郡豊並村の人なり。

衛生組合部長



池田 太一 君  
(村茂加上)

嚴父元治郎氏は曾て村會議員、地籍調査員として村治の功勞

ひ、傍ら農業組合長、衛生組合長、畜産改良組合員或は神社寺院の總代として地方公共に盡力せり、配は久米郡倭文東村桂木氏四男一女あり、三男は大坂師範を出て小學校訓導となり、四男は金川教員養成所を出て實業に従事す。

模範青年



坂手 文吾 君  
(町茂加)

祖考順一氏は里正より戸長、村長たりし家柄なり、先考清一氏は養子として其産を繼ぎ、農桑の業に従ひ精農家の評ありしが年輪五十にして病歿す、君は長男に生れ幼少より孤獨の生計を續け克く家産を守り熱心に農業に従事す、昭和八年以來鐵道省に就職し勤勉以て今日に至る、傍ら村青年團、消防組の役員となり地方の爲に盡力し、前途有爲の良青年なり、配は同姓より入る。

者なり、君は其二男にして明治十二年八月十五日生誕す、幼にして學を好み小學校より進て作東義塾に漢籍を學び、後農業に従事し精勵産を治む、曾ては村書記となり其他部落總代、衛生組部長、神社總代として村公同に盡力し地方の信頼厚し、配は東加茂村小鴨氏より入る七男一女皆健在なり。

農家組合長



中尾 孫四郎 君  
(村郷)

先考長藏氏は農事に熱心し、傍ら村會議員として村政に參與せし家柄なり、君は其長男にして明治五年十月二十日出生す、天資温厚着實なり、千之小學校を出て上原君雲に就て漢籍を修むること數年後祖業を繼ぐ、専ら子女の教養に心を

花道未生流師範代



藤田 源吉 君  
(村野大)

君は繁藏氏の長男なり、明治八年十二月八日を以て生る、天資剛直活潑なり、郷學を了へ父の業を繼ぎ勤儉産を治めて村の有力者なり、大正十年村會議員となり村政に參與すること二期、退て村農會總代、農會副會長として地方の信頼あり、傍ら花道に熱心し昭和八年未生流師範代の免許を受く、配は久田村の武本氏一男一女あり、長男は鐵道局に就職す。

青年團長

廣澤 歡一 君  
(香々美北村)

父を直衛と稱し、代々農を以つて家業となす、君は其長男にして明治四十四年九月二十八日に生る、郷學修了後昭和五



年青年團越畑支部長となり、本團經理部長、体育部長より進  
 で青年團長とな  
 る、其の間道路  
 愛護會々長とし  
 て活動し、又尚  
 武會を組織して  
 武道の奨励に力  
 め團の進展に貢  
 献す、昭和九年  
 道路愛護事業の  
 模範者として縣知事より、又青年團に盡せし功績により縣聯  
 合青年團長石井學務部長より、表彰せらるると云ふ。

青年團長 牧田貴來君  
 (中谷村)

祖考は嘗て村會議員として村政に參與し、先君一春氏は農  
 業の傍ら、信用組合理事、自警團副長の要職に任じて地方の  
 信賴あり、君は明治四十五年五月一日其長男に生る、勝間田  
 農林學校を出で家業に従事す、後農家組合副長となり、青年  
 團產業部長、尋で青年團長に進み、青年指導の中堅に當り將



來を囑目せらる、令弟  
 正之氏は津山中學校よ  
 り進で岐草藥學專門學  
 校の出身なり。



精農者 石原哲雄君  
 (村出羽)

嚴父を與茂太郎と稱し代々農を業となす、君は明治二十五  
 年十一月二十六日呱呱の聲を擧ぐ、郷學を了へ津山逸見養蠶  
 傳習所を出でて後農桑の業に従事す、傍ら村農會惣代、信用

農事熱心家



二木壽平君  
 (村田苦東)

父鉄造氏は農事に精勵し耕耘改良增收に名聲あり、君は明  
 治十九年二月十八日生誕す、郷學を了へ先緒を繼ぐ、大正十  
 五年村統計調査員に擧げられ縣知事の表彰を受く又昭和十一  
 年内務省より旌表せらる、君資性温厚にして實直業務亦熱心  
 にして地方罕觀の精農家たり、配は勝田郡新野村西中氏、村  
 内三木菅三氏を養子となし産を繼がしむ。

組合評定員、有畜組合副組合長として農村の産業振興に盡し  
 又衛生委員、消防部長、部落長を兼務し地方の信賴あり、配  
 は全姓多作氏の女なり一男四女を擧ぐ。

元芳野村助役



坂手羌平君  
 (町塚市山津)

君は芳野村の舊家坂手紀七郎氏の長男なり。郷學を了へ津  
 山上原石雲に師事して漢書を學ぶ、後近衛歩兵として竹橋第  
 二聯隊に入り上等兵を以て退く、爾來家産を治め傍ら村會議  
 員、村助役、消防組頭、農會副長として農村産業の振展に盡  
 し、今や退て津山市に住し、子女の教養の傍ら商業に従事す  
 配は久米郡の人某氏一男二女あり。

芳野村助役 坂手正夫君  
 (芳野村)

宗祖は藩政時代の長百姓なり、先考は熊太氏地方の舊家に



助役となる、傍ら青年團支部長、消防組部長、在郷軍人分會理事として地方公共に盡し最も信頼あり、配は小田村金島氏より入り先ち歿す二男二女あり皆幼少。

して聲望あり君  
明治三十一年五月二十五日を以て長男に生る、天資濃厚勤勉なり、郷學を了へ家業に従事す、昭和四年村書記となり累進して

東苦田村助役



北原力君  
(東苦田村)

元富村長



押坂義倫君  
(富村)

元岡山縣山林會副會長  
元岡山縣山林會副會長  
元岡山縣山林會副會長



田内龍平君等七勳  
(上加茂村)

見の明は刮目して其成功に俟つ。

宗教家

清田寂榮上人  
(高田村)

俗姓は清田氏、横堅多聞寺の住職にして、久米郡の本山寺住職を兼ね、明治十三年得度、台密兩部に涉り涉獵せざる無く、縣下台宗の巨擘として學徳並高し、社會改革論者片山潜氏は上人の令兄にして、善光寺の大勸進水尾寂曉師はその令弟なり、體貌豐偉豪快洒落、能く談じ、能く飲み、又韻事を解すといふ。

村長

福田駒次郎君  
(東苦田村)

上加茂村長

石原

武君  
(上加茂村)

東苦田村収入役

二木

篁君  
(東苦田村)

上加茂郵便局長

内田証一郎君  
(上加茂村)

一宮村長

杉浦智雄君  
(一宮村)

福田家は藩政時代庄屋を勤め明治維新に至れる地方の舊家なり君は榮藏氏の嫡男にして明治七年六月を以て村内志戸部に至る、天資豪直識度あり、夙に村會議員として四期を重ね大正八年村助役となり幸で村字の椅子に就く其間津山高田線の縣道編入、及小學校の増築、信用組合の創設等は一に君の企劃に依り成功せり、今亦村を津山市に併合せんとするの議あり即ち時世の要求は自治の運用善處に伴ふ所にして君が先

元縣會議員 醫師

後藤源治郎君  
(香々美南村)

嚴君は熊治郎氏地方の名族なり、君は慶應三年五月十九日を以て二男に生る、福岡醫學專門學校を出て、郷土に開業して遍く仁術を施す、蓋し地方杏林の先覺者なり曾て村助役に擧げられ又縣會議員たること數期、遂に副議長となり縣政有



終の美を全ふす、今や世事を謝し醫業の傍ら村會議員として村政に參與し地方の元老を以て任す、君天資温厚にして圓滿なる人格者なり、年齒今古稀に達するも猶嬰孩として壯者を凌ぐの概あり、室は村内武田氏に娶る。

與せし功績少からず、即ち奥津村の今日あるは實に君が賜なり、今や退て閑地に生を養ひ悠々自適す幸に自重健壽を祈る、配は村内の難波氏、三男あり皆年少にして家庭圓滿なり。

前奥津村長

友 保 知君

(奥津村)

君は權右衛門氏の二男なり、代々農を業とし、地方上流の資産を有す、曾ては庄屋年寄役を勤めし家柄なり、君は明治二十三年十月五日を以て生る、醫業學校卒業の後養蠶技術員として蠶業の發展に盡し、後奥津村の助役と爲り、更に村長と爲る、大正十五年五月奥津村火災に當り君最も心血を注いで前後方策を講じ、其復興に努力し、其他温泉の宣傳、縣道の改裝、町村電話の架設、定期乗合自動車會社の設立等其寄

君の姓氏素性は今更此に記述するの要なし、南備閑谷費本科を出で進で中央大學法律科を卒業し、關稅官吏と爲る、横濱税關に勤務すること多年功に依り從七位に叙し勳八等瑞寶章を下賜せらる、退いて歸郷し、大正十五年以降今日迄東加茂村長として繼續就任し、其卓越せる手腕と、懷抱せる意圖とは、年と共に隨時隨所に發揮せられ、事務の整理、事業の經營、兩々相待て見るべきものあり、今や地方の良村宰として衆望を集め、自治の進展に貢獻せる君の前途や明朗なりと謂ふべし。

東加茂村長 從七位 木 村 壽 平君

(東加茂村)

元信用組合長

山 本 計 穂君

(加茂町)

明治二十二年四月十日を以て生る家職を鶴藏といふ、家代々農を業とし上流の産を有す、郷學を了へ姫路騎兵第十聯隊に入り明治四十一年滿洲守備として駐屯し騎兵伍長と爲る、歸郷の後家業に従事し町會議員となり村治に參與す、傍ら加茂町信用組立に奔走し組合長と爲り専務理事を兼ね、今日の隆盛を見るに至りしは全く君の經營宜しきを得たる賜なり、配は郡内黒木の河田氏一男女あり、男は日支事變に従軍して功を樹て勳八等に叙せられしも不幸病の爲めに斃る、女は津山實科高女の出身なり。

就中中國水電の工事に當りては村利民福を考慮し會社と協同を遂げて大に効勞を奏せり、昭和十年再び選ばれて村長の椅子に就き行政事務に參與す、配は下齋原の鈴木氏、五男二女を擧ぐ、長男は家に在り、二男は大坂杉村倉庫株式會社に、三男は日本郵船會社に勤務し、四男は縣師範出身の小學教員たり。

久田村長 勳七級 岡 田 嘉 名 一 君

(久田村)

奥津村長

動七等 友 保 資 一 郎君

(奥津村)

明治十二年三月八日愛太郎氏の長男に生る、家代々農を業を營み嚴君は戸長を勤めしことありといふ、君も亦青年團長、在郷軍人分會長と爲り、村收入と爲り、村會議員に當選すること三期、昭和六年推されて村長と爲り村治の發展に努め、

先考を長五郎と稱し地方の名門なり君は其の二男として明治十五年一月十八日生誕す、三十五年鳥取歩兵第四十聯隊に入り日露戰役に應召して第四軍に加はり各地に轉戦す、殊勳を以て勳七等功七級に叙せられ歩兵軍曹となる、解隊後村收入役となり大正十三年村長に當選し期滿退職す再び昭和十一年村長の椅子に就き村政を宰斷す、其の間村會議員、土木委員、郡農會代議員として、功績洵に顯著なり、君資性謹直篤實にして村民の信頼頗る厚し、配は高野村神田氏三男三女を擧ぐ、長男昇氏は勝間田農林學校より進で高松教員養成所を

出で實業補習學校に教ゆ。

元村會議員

鈴木利助君

(久田村)

君は眞庭郡河内村河本虎治郎氏の令弟にして明治四年四月十二日の誕生なり、後鈴木家の養嗣子となり其の姓を氏す、爾來農業に精勵して産を増殖す。家祖代々庄屋の名門なり君村會議員に當選すること三期、其他農會評議員、信用組合評定委員、社寺惣代、補習學校商議員等を兼務し、嘗ては耕地整理組合員として村事に力を盡し其の功績觀る可きものありと云ふ、君資性濃厚篤實にして地方の信頼厚し君に男子なし大野村日下初太郎氏の二男を養ひ女に配す鹿治郎君其人なり。

信用組合長

石原良平君

(久田村)

君は明治元年六月二十三日久田村に生る家代々農業にして地方上流の産を有す、爲人温良恭謙にして聲望あり、郡會議員と爲り、村長となり、農會長となり、其他郡農會代議員、山林會評議員と爲り、村有林の統一、道路の改修、農事の改良、信用組合の設立等君が劃策に成る處多く其功没す可らず。現時は久田信用組合長としし金融機關の要地に在り、配は郡内大野村池上氏、四男三女あり、長は家業に力めて家に在り、二男は京城高商出身、三男は大阪外語出身、四男は京都同志社高商部出身にして皆共に活動し女子又嫁せり。

上齋原村長  
信用組合長

柳井保君

(上齋原村)

柳井萬作氏の令孫にして、嚴父を鶴太郎氏と曰ふ、代々農事に精勵して上流の産を有す。君は其長男にして明治二十八年四月九日を以て生る、大正二年高松農學校卒業の後補習學校教師と爲り、全國修養團の幹部として地方の指導に努め居

教育家

勳八等

初川簡義君

(高田村)

りしが、衆望に依り選ばれて村助役と爲り、後累進して村長と爲り、繼續以て今日に至り、傍ら信用組合長、施業森林組合長、消防組頭等を勤め青年村宰として自治の進展に邁往しつゝあり、配は奥津村の石原氏、岡山縣女子師範の出身にして三男四女あり、長男は岡山中學の出身なり。

町會議員

山本長男君

(加茂町)

嚴父は伍作氏、久米郡大井西村中庄屋家久山熊太郎氏の五男なり、入りて理之吉氏の産を嗣ぐ、君は長男にして明治三十三年九月十日を以て生る、天資濃厚頗る理財に富む、明治大學を出て祖業を助け酒造業に従事す、銘酒常盤は君が製品中の逸品にして各地顧客の歡賞を博せり、君業余青年團長、消防組頭として指導の中堅に任せしが昭和八年以來町會議員に推されて村政に參與し地方に聲望高く近郷に素封家を以て知らる、配は勝田郡眞加部安東氏にして一男一女あり。

福泉寺住職

岩原諦雲師

(郷村)

先住諦勢上人は學徳識見崇高の名僧にして眞言宗美作支部長として縣下密宗界の巨擘たり、君は明治二十七年十一月三十日を以て津山市戸川町高山壽平氏の男に生る、資性穩健剛直なり、幼にして上人の僧堂に剃髮し後高野山大學に參籠し

て密教を修む、大正二年僧正上人遷化の後を襲ぎ、當山に晋山して法幢を翻へす、宗務の傍ら美作大同協合理事、村學務委員、青年團顧問として社會事業に活動せり、配は久米郡打穴村池上氏四男三女あり。

村會議員 二 本 要君

(高倉村)

先考浦太郎氏は曾て村會議員として村政に參與し代々精農家を以て知らる、君は其長男にして明治八年十二月廿八日誕生す、郷學を了へ林園書院に入り新谷英太郎先生の訓化を受く後小學校教員となり大庭郡に教鞭を取ること多年退て家事に従事す、昭和四年選ばれて村會議員となり村の自治に貢獻す、又政友會の主義に共鳴し中央、地方の政界に奔走し地方代表的の人物なり其の間苦田郡青年團幹事、消防組頭、信用組合監事として活躍し地方の聲望家なり、配は高野村香山氏二男を擧ぐ長男裕志氏は京都帝大出身の醫學士にして同大學に勤め、二男は家事に従事す。

信用組合理事長 勳七等 功六級 高橋 宇逸君

(東加茂村)

君は明治十三年一月四日里藏氏の長男に生る、家代々農業にして上流の産を有し地方の名門なり、郷學を出て三十三年鳥取歩兵第四十聯隊に入り軍曹に進む、日露戦役に出征し、後備聯隊として各地に轉戦す、遼陽、三塊石山、沙河鎮、奉天の大戦を終へ、勳七等功六級に叙せらる、凱旋後歸郷し家業に従事す、傍ら村會議員として三期、其他學務委員、在郷軍人分會長、信用組合理事長兼常務として、産業開發の要務を掌り地方の信頼高し、配は上加茂村中井氏一男あり家事に従ふ。

元村會議員 佐藤 淳 助君

(郷村)

始祖は村内高山佐藤氏の苗裔にして寛政年間岩太郎分家す、當時松平藩の御藏元役を勤め後世其職を襲ぎ重郎右衛門に至り解職となる、慶應年間女婿輝次郎分家し此地に住す、君は其長男にして明治元年十月五日を以て生る、今三十二年村

津山實科高等女學校教諭 宗 本 浩 君

(中谷村)

君は元中谷村長宗本素男君の三男にして、明治三十五年十月を以て生る、資性温厚明敏なり、大正十一年岐阜縣岐阜中學を卒業し、十二年伊勢神宮皇學館に入り昭和二年業を卒へ、津山實科高等女學校教諭となり現今に至る。

芳野小學校長 小 松 武君

(芳野村)

君は明治二十七年三月十七日久米郡榊和村清水家に生る、後眞庭郡川東村小松家の養嗣子となる、金川中學より進て岡山師範第二部を出で、久米郡榊原小學校訓導に任ぜらる、全十年眞庭郡久世町遷喬小學校に轉じ、昭和四年苦田郡香々美南校長に進み、同十一年四月芳野校長に榮轉す、爾來格勤精勵能く部下を統率し校務を整理し其功績大に見る可きものと云ふ、君天資温厚誠實にして兒童を愛撫し亦謙讓の人格者として父兄の信頼厚し、配は家女にして三男二女あり。

穀物検査員 勳八等 宗 本 堅 助君

(中谷村)

祖考要藏氏は曾て村會議員として永く村政に參與す、先考を淺治郎氏と云ふ、君は長男なり、明治十六年十二月十八日生誕す、明治三十七年野戰砲兵第十聯隊に入り後岡山師團に轉じ砲兵軍曹となる、日露戦役に應じ出征、各地に轉戦して勳八等に叙せらる、退て家業に従事し村會議員、消防組頭、農會總代、學務委員、信用組合監事として村治に活躍し現今穀物検査員たり、配は井上氏郷村の人なり四男二女を擧ぐ。

元村長 井上盛市君

(郷村)

家祖は代々農業に精勵して地方の範を示し上流の産を有す、君は茂久助氏の長男にして明治十一年四月二十八日に生る、東備閑谷農に學び歸りて父を助け専ら農桑の業に従ふ、大正十一年村助役に擧げられ村政補佐の任に當る、昭和四年村長に進み農會長を兼ね村政を宰斷し、自治の運用に任ぜしが全六年二月病を以て職を辭し今や閑地に生を養ひ傍ら村事公同に盡す處あり、配は眞庭郡久世町行本氏三男三女あり、令弟圓治氏は教育功勞者にして東吉田村福田家の養嗣子となる。

小學校學務委員 田口義平治君

(東吉田村)

田口家は地方の名門にして上流の資産家なり君は慶應三年七月十日を以て生る、爲人恬淡謹直なり、小學校を了へ村内仁木塾に漢籍を學ぶこと數年、明治三十四年以來村會議員として村政に參與し自治功勞あり、其間山林委員、植林委員、土木委員を勤め特に昭和池新設に當りては組合會議員として

工事の完成に努め又學務委員として村教育の振興に盡す等其功績甚大なりと云ふ、配は勝田郡勝田村上原氏三男三女あり長子重良氏郡農會技術員たり。

村會議員 田中町次郎君

(上加茂村)

君は慶次郎氏の二男にして明治十一年三月二十日を以て生る、資性剛直明快なり、郷學を了へ家業に精勵して産を有す、村會議員として四期を重ね其他信用組合監事、村農會評議員、郡木炭同業組合代議員、養蠶實行組合監事等の名譽職を兼任して公同に盡し村閭の聲望最も高し、配は加茂町内田氏なり。

信用組合常務理事 田淵哲也君

(香々美南村)

先君浪治郎氏は嘗て村會議員、信用組合監事等を勤め地方の資産家とし名望家を以て知らる、家世々農を以て業となす務す。

合資會社代表社員 光永大祐君

(奥津村)

嚴君を寛藏と稱す、曾て戸長、村長を勤め地方の名望家を以て知らる、君は明治三十四年十二月二十日第二男に生る天資穩健着實なり、津山中學より進で法政大學文科を出て東都操風界に在りしが、大正十五年郷上奥津温泉場の災火は延て町全部を灰塵に歸し温泉事業荒茫没落の危機に頻したるを以て、壯圖一蹶郷に歸り、爾來復興に努め遂に昭和五年再び舊地に豪麗華麗の浴場を新設し改めて河鹿園と名し自ら經營の任に當り、現今浴客陸續踵を接して來り地方の商勢亦彌々殷賑を極むと云ふ、配は津山市坪井町田口氏なり。

村長 動七等功七級 岸本源治君

(阿波村)

君は廣治氏の二男にして明治十三年六月十六日を以て生る、明治三十三年鳥取歩兵第四十聯隊に入り歩兵伍長とな

君は其の長男にして明治二十五年十二月十八日呱呱の聲を學ぐ、津山中學校より進で東京農科大學高等科を出て、郡農會手技を勤むること五ヶ年、後村會議員となり、信用組合常務理事、村農會副會長として地方産業の開發に貢献す、君舊名淳を改めて哲也と曰ふ、配は久米郡三保村友廣氏、其間二女を擧ぐ高野村香山家より養子を迎へ女婚となす東洋大學文科を出て大阪野里鉄工所に勤務す。

村會議員 小坂道雄君

(香々美南村)

君が宗祖は天領庄屋より次で官選戸長を勤む、先考龍市氏は上流の資産を有し曾て村宰或は村會議員として地方の徳望家なり家代々農を以て業となす、君は明治二十四年二月八日其二男に生る、津山中學校を卒へ地方小學校に教鞭を取ることに十余年、退いて村助役に擧げられ又村會議員となり村自治の功勞頗る大なり、其の間消防組頭、縣消防協會評議員、其他各種團體の幹部として活躍し地方中堅人物を以て稱せらる傍ら劍道に造詣し教師三役の階級に在り。配は勝田郡古吉野村石川氏、二男一女を擧ぐ二子共に津山中學を出て長子俊則氏は京都電燈株式會社に次子進二氏は住友機械製作會社に勤

る、日露の戦役應召出征して第四軍に加はり各地に轉戦すること實に十三回不幸兩足に貫通銃創を受く、戦功に依り勳七等功七級に叙せらる、凱旋後専ら家業に従事し、傍ら在郷軍人分會長、村會議員、學務委員、信用組合監事、等の名譽職を兼ね、昭和十年五月選ばれて村宰となる、天資温厚篤實にして夙に村民の景仰を受く、配は東加茂村田村氏其間一男二女を擧ぐ。

村會議員 下山楠右衛門君

(高倉村)

嚴父を武十郎と稱し嘗て村會議員として永く村政に參與す、家代々業を以て業となし上流の産を有す、君は明治八年十月八日其長男に生る、郷學を了へ林園書院に學び同廿八年姫路歩兵第十聯隊に入り上等兵となり下士適任証書を以て満期す、大正十四年村會議員となり村政に盡瘁して今日に至る其の間郡農會議員、村農會議員として地方公共に貢獻す、天資快潤にして村民の信賴厚し、配は勝田郡廣野村久常氏三男四女を擧ぐ、長男一氏は歩兵少尉にして二男丈夫氏は農學士たり現時帝室林野局に出仕す、三男太郎氏は家業に従事す。

村會議員 高山定四郎君 (神庭村)  
明治十一年三月十四日を以て生る、嚴父を慶藏氏といふ。代々稼穡の業に精勵して資産を増殖す、君は其長男にして先緒を襲ぎ家業に従事す、小學修了後青年團長、耕地整理組合長と爲り、大正十四年以降村會議員として村政に參與し繼續今日に至る、其間各種委員を兼ね地方の信望厚し、配は勝田郡高取村大谷氏より入る二男三女あり、長男武は鳥取縣高等農林學校を出で帝國農會所屬全國聯合購買所に勤務し大阪に住す。

醫師 坂手章一君

(上齋原村)

坂手家は泉村井坂寄山城主坂手源兵衛より出づといふ、家代々刀圭を以て業と爲す、源兵衛の子要兵衛醫を學び徳齋と稱す、これより光齋、昌齋、周齋、勇齋、寛齋、謙齋を経て文齋に至る文齋子無し、矣郡大井東村田邊榮一郎の孫を養ふて家を襲がしむ、乃ち君なり、明治二十年十一月二十二日を以て生る、大正二年日本醫學校を出で、北海道樺太に往き醫

療に従事すること十一年、歸郷して開業し、祖先以來の杏林に居り、地方の患者を救済し、傍ら村會議員と爲り名聲あり、配は家女一男あり猶ほ幼なり。

元村會議員 勳八等 田村運八君

(東加茂村)

君は町田敷五郎氏の二男にして後田村氏の養嗣子となる、代々農業にして上流の産を有し、地方の名望家なり、君明治二年十一月公郷に生る、二十二年大阪砲兵第四聯隊に入り上等兵となる、日清、日露の兩戦役に參加し、勳八等に叙せらる、凱旋後家業に従事し、村會議員となる、常時加茂神社担当總代とし多年神明に奉仕す、就中畜産改良の熱心家にして郡畜産組合評議員たり、配は家女にして一男あり津山中學より進で關西學院を出で劍道三段の階級を有せりと曰ふ。

村會議員 勳七等 北村徹平君

(上加茂村)

君は阿波村小椋玉治氏の二男にして明治十年十二月十八日に生る、後理三郎氏の養子となる、養父は曾て村助役、村會

村會議員 勳八等 田村辰三君

(東加茂村)

嚴君を佐五郎といふ、君は二男にして明治十四年八月十四日生誕す、後に村内織治郎氏の家を繼ぐ、全三十四年鳥取歩兵第四十聯隊に入り、日露戦役に參加し出征各地に轉戦す、沙河の冬營を破り奉天に迫るに當り柳匠屯の陣地永久不落の敵軍に突撃し名譽の負傷を受く功に依り勳八等に叙せらる、凱旋後郷に歸り部落長として勤績十ヶ年其間公有林の開墾事業を完成し、大正十五年村會議員となる、傍ら信用組合理事、全監事、學務委員、養蠶實行組合長、神社總代として地方の信望高し、配は家女にして三男五女あり。

奥津村消防組頭 正八位 友保 博 隆君

(奥津村)

明治二十二年一月二十六日來太郎氏の長男に生る、家代々農を以て業となす全三十九年三月高松農學校卒業の後一年志願兵として鳥取歩兵第四十聯隊に入り歩兵少尉と爲り正八位に叙せらる、歸郷の後家業に従ひ先緒を繼ぐ、傍ら在郷軍人分會長及び消防組頭と爲り能く其任を盡し、功勞少なからずと云ふ、配は香々美北村影森氏、一男三女あり。

信用組合長 勳八等 居森 松治 郎君

(小山村)

君は明治十八年四月十八日中谷村宗本家に生まる、後居森家に入りて養子となり其の姓を冒す、郷學を了へ同三十八年鳥取歩兵第四十聯隊に入り歩兵曹長に進む、後鳥取聯隊區司令部附書記となり勳八等に叙せらる、大正六年十一月滿期して故山に歸り、更に朝鮮師團陸軍屬として勤務すること一ヶ年、退て昭和三年村會議員となり勤績今日に至る、猶村信用組合長を兼ね地方の産業振興に力を竭し傍ら在郷軍人分會長として活動せり。

元村會議員 藤岡 民 藏君

(香々美南村)

君は村内青井直一氏の二男にして明治五年五月廿四日を以て生る、天資温厚明敏なり後藤岡家の養嗣子となる地方の資産家なり、君郷學を了へ小學校教員として多年育英の任に當り大正十年選ばれて村會議員となり勤績三期に及ぶ又信用組合常務理事として、基礎を確立し、其他農會評議員、苫田郡畜産組合書記として農村産業の振興に力むる等其功績甚大なり、今や退て家に在り一男を擧ぐ津山中學より進で岡山師範第二部を了へ専で専攻科を出で小學校訓導に任ず。

村會議員 田中 武市 郎君

(東加茂村)

嚴父を筆治郎と曰ふ、村會議員又は耕地整理組合長として活動せし人物なり、君は其長男として明治十年七月に生る、父に次で家業の傍ら耕地整理組合長と爲り、村内小淵正念寺間二里余の灌漑用水路敷設の大事業を完成す、其事績は紀念碑と共に永劫に勒在せり、君も亦公郷の部落長とし、村會議員として、村事に盡しつゝあり、令弟武次郎氏は貿易商とし

て成功し今や神戸市須磨の山麓に住し二弟稔氏は陸軍幼年學校出身の歩兵中尉たりしが早世せり、配は加茂町黒木の菅田氏、三男三女あり、長男次男は家に在り、三男は名古屋高商の出身なり。

信用組合理事 勳八等 藤木 平 藏君

(上齋原村)

嚴父常藏氏は地方の精農家を以て評せられ、八十六歳の長壽を保ち勤儉産を治めし有力者なり、君は明治七年七月四日其長男に生る、郷學を卒へ家業に従事し、村會議員に當選すること六期に及ぶ、其他農會總代、養蠶組合評議員となり村治の功勞者なり今や退て信用組合理事となり農村産業の振興發展に努む、曩に日清、日露の戦役に出征し勳八等白色桐葉章を拜受せる勳功者なり、配は羽出村永田力藏氏の女にして四男一女あり。

信用組合専務理事 森 永 靖 志君

(羽出村)

君は明治三十二年呱呱の聲を擧ぐ、資性剛直明快にして努

村會議員 高山 猛 省君

(高野村)

君の家門は一族四人成功の緒に就き郡中稀に見る模範の家庭なり、祖考は農事に精勵し傍ら子女の教養に心を用ひ地方の勤勉家なり、伯父源助氏は多年中等教員を勤め退て名古屋市に老を養ひ、同重雄氏は佐野と改姓廣島山陽中學校に教鞭を執り、同和夫氏は神戸市辻貿易商會の支店長となり、令弟準氏は眞野と改姓東京結核豫防協會書記長の任に在り、嚴父は元藏氏、君は明治二十四年六月二十五日長男に生る、津山中學を出で津山郵便局に勤務する事多年退て家業を繼ぎ昭和四年選ばれて村會議員となる、傍ら學務委員、社會教育委

員、消防組頭等の榮職に任じて地方の聲望頗る高し、配は東加茂村立石氏四女を擧ぐ家庭圓滿なり。

加茂小學校長 早瀬 孝君

(高野村)

君は高野村の人なり大字押入に生る、明治四十年三月津山中學を卒業して、小學校訓導と爲り、高野校及津山西校を経て一宮校々長と爲り、更に中道校長を経て高田校長と爲り、高等官七等を以て待遇せらる、昭和拾年加茂小學校長に轉ず又教育界に於ける功勞者の一人なり、配は郡内郷村井上氏、三男あり長は津山實科高女の教諭となり、二は津中を経て京都帝大醫學部に在學し、三は天、四は幼なり。

村會議員 田中 清君

(奥津村)

先考は實治郎氏にして家に産を有し、地方の有力家なり、曾て收入役に任じ永く村財政の經理に盡す處あり、君は長男にして明治二十四年を以て生る、郷學を卒へ陸軍重砲兵とし

て新鶴重砲大隊に入り、轉科して上等看護兵となる、滿期後奥津興産酒造會社事務取締役となり、又村會議員、學務委員として村政に參與す、天資淡泊仁俠にして地方公共の活動家を以て聲評高し。配は村内友保氏其間二男一女あり。

羽出校長 矢田嘉右衛門君

(大野村)

君は明治二十三年八月廿五日眞庭郡美川村の名門押目鶴太郎氏の二男に生まる、大正六年矢内竹治郎氏の養子となり其の姓を冒す、養父は嘗て村吏員村會議員として村政に盡し、地方の精農家を以つて知らる、君大正二年岡山縣師範學校を出て小學校訓導として眞庭郡久世遷喬小學校、苦田郡香南郷、一宮、院庄に教鞭を執り昭和九年三月香南校より羽出校長に榮轉し以て今日に至る、君資性温厚謹嚴にして克く生徒を訓化し父兄の信頼最も高し。配は全村全姓より入り一男一女を擧ぐ。

村會議員 小林豊治郎君

(香々美南村)

小林家先代は庄屋を勤め代々農を以て業となす、父を信太郎と稱し君は明治九年六月廿五日其二男に生る、全二十九年鳥取歩兵第四十聯隊に入り退營後日露戰役に應召し、出征第四軍の戰闘序列に加はり各地に轉戦して殊功を立て勳七等功七級に叙せらる、嘗て苦田郡書記となり退て全四十二年以來村會議員となり村治に貢獻し以て今日に至る、其の間軍人分會長、消防組頭、衛生組合長、信用組合理事、濟世委員、農會評議員、社寺惣代等を兼ね村の自治功勞者なり、配は泉村坂手氏三女あり、村内大塚二郎氏を迎へ女婚となす目下大阪實業界に在り。

豫備陸軍歩兵少尉 正八位 田中 二郎君

(奥津村)

先考を楠太郎と稱し、嘗て村議、村宰として多年村治に參與し地方の功勞者なり、代々農を以て家業となす、君は明治四十年二月十六日其二男に生る大正十三年高松農學校を出て岡山縣農事試驗場に技手となる、昭和二年一年志願として岡

村會議員 爲本秀男君

(富村)

嚴父を佐吉氏と云ふ地方の精農家にして上流の産を有す、君は明治二十二年七月廿五日村内大に生る、郷學を了へて家業に従事し、傍ら青年團支部長、部落長となり昭和四年村會議員に當選し村政に參與す又信用組合理事、養蠶實行組合理事、木炭販賣組合理事として農村産業の振興に盡す處あり、配は某氏二男一女あり、長男は家業に従事し、二男は勝間田農林を出で、長女は高等女學校の出身なり。

未生流花道師範代 竹内 澤治君

(神庭村)

嚴父は中谷村本喜代治氏、君は其六男なり、明治十年九

月二十七日を以て生る、天資温厚着實なり郷學を了へ鳥取歩兵第四十聯隊に入り日露戰役に參加し各地に轉戦す、拔群の功に因り勳七等青色桐葉章併に功七級金鷄章を下賜せらる、解隊後多郎平氏の養嗣子となり産を繼ぐ、大正十五年村會議員となり村政に參與す、傍ら花道に興味を有し未生流家元師範代、兼准諸國總會頭として令名あり、配は家女にして其間二女あり。

養蠶技術員

兵延 林 太郎君

(高田村)

君明治二十一年二月二十一日、郡内高野村牧藤十郎氏の五男に生れ、長して兵延啓藏氏に養はれて家女に配し、分家す、二宮養蠶講習所に學び、養蠶技術員として縣下の各町村に其技を施す、君最も斯業の經驗に富み、熟練々達を以て尊重せられ、上司より拔擢を慫慂せらるゝも肯せず、今は糸郡福渡町技術員として勤務せり、配は菊野氏京都府教員養成所の出身にして、曾ては小學校に教鞭を執りしが今や辞して家に在り、一女津山實科高女に在學中なり。

教育家

杉 山 恒 治 郎君

(津山市二宮)

明治十九年十二月六日、梅四郎氏の三男として生る、家世々農業を營み中庄屋を勤めし地方の名門あり、明治四十三年三月岡山縣師範學校を卒業して高田村小學校訓導と爲り、尋て院庄小學校に轉じ、大正十三年十一月校長と爲る、爾來香々美北村、富村の校長を歴任して昭和六年四月西加茂村小學校長と爲る、資性磊落にして霸氣に富む、其生徒を教ゆるや、循々として方あり、至誠にして倦まず、父兄信賴せり昭和十年退職す、配は勝田郡勝間田町の下山氏、一男一女あり女は津山高女を卒業し、男は津中に在學す。

村會議員

河 本

隆君

(高野村)

嚴父は河本久平氏村上流の産を有す、曾て村會議員として自治の功勞者なり、君は長男にして明治二十六年十一月二十日を以て生る、天資明快活活なり吉備商業學校を出て苦田郡書記となり郡政廢止に至る、十二ヶ年勤続の功績者なり、爾來農業に従事し昭和二年村會議員に當選し現今に至る、傍ら

村信用組合評定委員或は寺院惣代として村事に盡力せらる、配は大野村藤田氏共間一男二女あり。

小學校長

河 本 敏 太君

(香々美北村)

君は明治二十五年六月五日御津郡宇垣村八木家に生まれ、後久米郡福渡町河本家の養子となり其の姓を冒す、河本家は地方に於ける屈指の名門にして庄屋、戸長、町長を勤めし家柄なり、君資性謹直夙に育英に志し長崎師範を出で、久米郡加美小學校訓導となり、友清小學校長、龍山小學校長を経て香々美北小學校長に轉じ今日に及ぶ、在職十年終始一貫職務に誠實熱心にして父兄の信賴厚し、一男一女あり幼少なり。

元村助役

成 瀬 千 代 一 郎 君

(羽出村)

嚴父を彌三郎と稱し世々農業に精勵し上流の産を有す、君は明治八年二月六日其の長男に生る、郷學修了後家業に従事し明治三十一年村役場書記となる、全三十四年収入役に進み

精農家

池 田 玉 治 君

(中谷村)

祖考中江萬吾氏は天領庄屋を勤む、先考福四郎氏養子とな

村會議員

北 原 順 平 君

(東宮田村)

先考を北原福藏氏と曰ふ、嘗て村會議員として村政に參與す、君は長男にして明治六年十二月十二日を以て生る郷學を了へて父祖の業を繼ぎ勤儉産を治めて子女を教養す、村會議員たること五期を重ね村治の功勞者なり、その他信用組合理事、農會總代又は神社寺院の總代を勤め地方の信賴あり、配は一宮村中尾氏、一女あり田邑村上居氏より養子を迎へ女に配す。



り池田氏を襲ぐ、君は長男なり、明治十二年十二月二十二日出生す、千之小學校を出で家業に従事し、勤儉産を治め精農家の稱あり、令弟信健氏は大阪商船會社重役の職に在り、配は泉村坂手氏二男三女を擧ぐ長は家に次は大阪佐久間氏を繼ぎ長女は香々美南村大塚氏に二女津山市井汲氏に嫁す。

精農者 勳八等 功七級 志水丈平君

(東加茂村)

君は仲四郎氏の長男にして明治十六年八月二十五日に生る、郷學を了へ青年團長となる、三十六年鳥取歩兵第四十聯隊に入り、日露戰役に出征す、清國南尖嘴に上陸し北進して各地に轉戦す、奉天大會戰に當り、柳匠屯の堅壘に肉迫して中隊全滅に陥り、生還者僅に三十名なりと曰へり、君其數に加り任務を遂行して、勳八等に叙せられ功七級金鷄章を拜受す、解隊後歸郷し家業に精勵して資産を増殖す、傍ら消防組小頭、濟世委員、區長として村事に盡し聲望あり、配は西加茂村藤原氏一男あり。

元村會議員

影山勝治郎君

(高倉村)

家祖は平國盛に出づ現代影山藤作氏の一門にして地方の名族なり、亡父を房吉と稱し世々精農家を以て範を示す、君は其の長男にして明治五年五月七日を以て生る、郷學を卒へて家業に従事し、大正十年選ばれて村會議員となり長く村治に參與す、後部落長、山林組合會議員、衛生委員、社寺惣代等を兼務し地方の信用厚し、配は勝田郡大崎村片山氏の二女なり

小學校々長

木口龜一君

(元田邑村)

君は吉備郡久代村の人なり、明治三十年二月一日を以て生る、天資溫厚着實なり、大正六年本縣師範學校第一部を出て倉敷市尋常高等小學校訓導となり、昭和九年三月八日田邑校長に榮轉す、君平生職を執る熱誠克く部下を統率し教授懇切にして父兄の信賴厚く、良教育者として郡中に歩武を進めつゝありしが全十二年三月三十日上房郡吉川校長に榮轉す。

其間一男一女を擧ぐ長男は穂と呼び東京物理學校出身の秀才にして茨木中學校の教諭となり長女は久米郡三保村黒瀬氏に歸く。

酒造業村會議員

山口基一君

(高田村)

明治十二年五月二十二日村内大篠に生る、國治郎氏の長男なり、家代々農業たりしも、國治郎氏に至り酒造を營み家産頼に増加せり、君津山普通學校を卒業して家産を繼ぎ、酒造に従事す、傍ら村會議員と爲ること三期、米穀検査員、信用組合役員、部落理事、神社佛閣の總代等となり、地方に貢獻せり、配は勝田郡湯郷村佐々氏、四男あり長次三男とも勝間田農林を卒へ、長は家事に従事し、次は廣島稅務監督局に在りしが今や退て津山に住し、三は津山に商業を營み、四は岡山工藝學校を出で大阪自動車工場に勤務す。

村會議員 信用組合長

池田和作君

(中谷村)

君は眞吉郎氏の長男にして地方の舊家なり慶應元年十一月二十四日生誕す佐々木俊泰に師事して學を修む、後村會議員たること四十余年其他學務委員、信用組合長、農會總代、畜産改良組合評議員、濟世委員、衛生部長、救護委員、神社、寺院等の役員として村の功勞者なり、配は村内中江氏二男一女あり。

村會議員

北村岸夫君

(上加茂村)

嚴父は勝田郡龍尾村相田茂平氏、君は明治十九年九月七日

村會議員

竹内繁治郎君

(東苦田村)

嚴父を多一郎と稱す、代々農を家業となし多年村會議員た

り、君は明治十二年一月一日を以て生る専ら家業に精勵し上流の産を有す、大正十四年六月選ばれて村會議員となり再選今日に至る村治の功勞者なり、其の間勸業委員、土木委員、山林委員、養蠶組合長等を兼任し地方産業の開發に努む、資性温厚にして村閭の信賴あり、配は勝田郡勝田村田村氏四男一女を擧ぐ。

東一宮小學校長 平尾 孝君

(津山市山北)

先考平尾文平氏は津山藩士にして小學校教職に従事すること多年なり、君は三男にして明治二十五年二月十日津山市山北に生る、全四十四年津山中學校を出で、大正三年岡山縣師範學校本科第二部を卒業し、苦田郡奥津村小學校訓導に任ぜらる、同五年勝田郡公文小學校に轉じ、同十二年南和氣小學校長に榮進し、次いで湯郷、高取、苦田郡西加茂、阿波、中道の各小學校長として多年の功績特に觀る可きものあり、昭和十二年三月三十日東一宮校長に榮轉し現今に至る。

村助役 動七等 池内美則君

(東加茂村)

嚴父は伊勢吉氏、曾て村會議員として三十ヶ年村治の功勞者なり、君は二男にして明治二十四年十月二十四日に生る、郷學を了へ海軍に入團し一等兵曹となる、滿期後家業に従事し擧げられて村収入役となり勤続十二ヶ年昭和十一年助役に當選し村政の運用に任ず、其他信用組合監事、畜牛改良組合長、苦田郡畜産組合評議員、農會幹事として地方産業の振興に寄與す、配は阿波村小椋氏、令兄の女を養ひ嗣子となす津山高女の出身なり。

村會議員 平山壽男君

(西加茂村)

嚴父茂氏は大三輪神社の神官にして、後金刀比羅神社に奉仕す、家代々神職なり、君は明治四年三月二十五日、其長男に生る、山口縣に於て、熊本有向に就き漢籍を修め、小學校教員と爲り、上房郡上有漢及豊野の小學校に教ゆ、後加茂小學校に轉じ、退職して家業に従事す、傍ら村會議員と爲ること十六年、郡農會議員、村農會評議員、山林委員、畜産改良

組合副組長を兼ね村治に盡力す、配は加茂町の寺元氏、一男四女あり、長女は實科卒業後海軍大尉岸本寛一氏に嫁し、二女は福井泰思に嫁し、長男は通信書記と爲る。

村會議員 川上壽穂君

(上加茂村)

先考を仲四郎氏と云ふ、養蠶の熱心家にして上流の産を有す、君は明治二十九年一月三十一日長男に生る、郷學を了へ直に家業を繼ぐ、昭和八年村會議員となり、村政に參與す、傍ら村農會總代、消防組小頭、養蠶實行組合部長等の名譽職を兼任し村公事に盡す處あり、配は西加茂村上高氏二男二女を擧ぐ。

元村會議員 性全福一郎君

(高野村)

祖先は藩政時代の庄屋家にして地方の名門なり、先考増藏氏は敬神崇祖の念に篤く、其半生は神事に捧げたる地方の名望家なり、君は長男にして明治二十三年一月十二日を以て生

元町會議員 藤田瀧藏君

(加茂町)

嚴父は武平治氏にして地方に於ける精農家なり君は其二男として明治十一年四月十一日に生る村會議員町會議員として公共事務に盡すこと二十餘年最も畜産の改良に盡瘁し加茂牛の聲價を高めたるは君の力與つて效果あるに因る配は某氏二男四女あり長子太郎氏町役場書記と爲り町の青年團長を勤む

元町會議員 久永龜太君

(加茂町)

君は勝田郡南和氣村の名門福田芳太郎氏の令弟なり、明治二十二年五月二十日を以て生る、資性恬淡明快なり、津山中

學を出で幹氏の養嗣子となり箕裘の業を繼ぐ、大正十四年町會議員となり町政に參與す、傍ら信用組合理事、宇野電燈組合長、神社、寺院の總代として盡力し敬神崇祖の念に篤し、配は家女其間三女を擧ぐ長女は朝鮮銀行朝木誠一氏に嫁す。

村會議員

小原 茂樹君

(上加茂村)

明治二十四年一月十三日上齋原村に生る、本姓は田淵氏、小原徳右衛門氏に養はれて其家を承く、鳥取縣農學校を卒業し、岡山縣蠶業試驗場に學び、久世町蠶業會社技手、津山蠶業取締所豫防吏員、郡農製糸株式會社巡回教師等と爲り、地方の蠶業指導に努め、又昭和八年以後村會議員、消防部長、畜産組合長を勤めて貢献する所多しといふ、配は家女二男あり猶ほ幼なり。

信用組合常務理事

上高金治郎君

(西加茂村)

嚴君を駒藏といふ、君は其二男にして、明治十九年二月十六日生る、家代々農を業とす、明治三十九年鳥取歩兵第四十聯隊に入り、大正元年十一月歩兵軍曹と爲る、除隊後警察官と爲ること數年、退いて家に歸り父の業を繼ぎ、明治四十年村會議員と爲る、昭和八年二月更に西加茂村信用組合常務理事に選ばれ、以て今日に至る、其他區長、部落長、森林組合理事、農會理事、等となり貢献する所あり、三男四女あり長は家を繼ぎ、次は津山商業を出で大阪に在りて實業に従事すその他は幼なり。

村會議員

兒玉與六君

(東加茂村)

養父清一郎氏は曾て村會議員たること三十有余年、地方屈指の資産家なり、君は明治五年四月十八日勝田郡廣戸村平山家に生まれ後養嗣子となり其の姓を氏す、郷學を了へ家業の傍ら部落長、耕地整理組合長となり、昭和四年村會議員に當選し學務委員を兼務して村の自治に貢献し、又濟生委員として社會事業に奉仕し、信用組合理事、村農會副會長として農

村の産業發展に力む、曩に神社惣代として多年の功勞に依り上司の表彰を受く、君資性温厚篤實にして敬神の念に篤し、二男一女あり男は家業に従ひ女は小學校教員たり。

村會議員

妹尾平四郎君

(羽出村)

祖父嘉藏氏は嘗て村會議員として村政に參與す、實父を軍平と稱し、村内友保家より入りて養子となり妹尾の姓を冒す、代々農を以て業とせり、君は明治廿八年十二月一日呱呱の聲を擧ぐ、郷學を了へて家業に従事し、傍ら青年團副團長消防小頭として活動し、大正十年選ばれて村會議員となり村政に貢献する處あり其他山林委員、信用組合監事等を兼務す、君資性剛直にして村民の信用厚し、配は村内武本源逸氏の女一男三女を擧げ家庭頗る圓滿なり。

木炭検査員

宇佐美 茂君

(加茂町)

先考惣一郎氏は農事改良の熱心家なり、君は長男にして明治二十七年六月二十三日に生る、高粱中學を出で近衛歩兵第二聯隊に入り錦旗の守護を奉じ上等兵となる、退て家業に従事し精勵怠りなし、昭和八年八月縣木炭検査所津山駐在所詰検査員となり現今に至る、配は鳥取縣八頭郡佐治村小林氏より入る一男三女あり。

町會議員

中葉定太郎君

(加茂町)

嚴父留五郎氏は養蠶の熱心家なり、精勵以て産を造成す、君は慶應三年二月十二日長男に生る、天資穩健着實なり、地

村會議員

小椋鶴雄君

(阿波村)

君は明治二十五年十一月二十三日を以て生る、郷學修了の後

方小学校を出て家業に従事す、大正十四年町會議員に當選し、現今に及ぶ、其間土地賃借價格調査員、畜産組合代議員、信用組合理事として活動怠りなく地方の信用家なり、配は勝田郡勝間田町安東氏より入り二女を擧ぐ。

元村農會長

石原 宜一君

(上加茂村)

君の家は備前牛窓城主石原五郎左衛門藤原道高より出づと稱せり、嚴父は理太郎氏君は其長男なり、明治九年十一月二十三日に生る、明治五年河會村地券下調係を振出しに爾來村内の公務を勤め、十一年青柳村副戸長兼小学校長と爲り、戸長と爲り、町村制施行以來村會議員と爲り、其他各般の公務に參與せり、配は郡内神庭村の永禮氏二男一女あり長男は師範校を出で現に小学校訓導として教鞭を執り次男は逓信省吏員と爲り、女は津山の三谷家に嫁す。

元町會議員

都井 教一君

(加茂町)

嚴父は廣戸俊藏氏、君は二男にして明治九年十二月二十五

日出生す、郷學を了へ林園書院に漢籍を學び、年十九歳にして忠藏氏の養子となる、同氏は曾て戸長、村會議員として村治の功勞者なり、君大正六年町會議員たること三期退て學務委員、山林委員となる曾て奥津村連絡の縣道編入及倉見地區内耕牧整理事業に對しては一身を挺して其進涉の要に當り甚大の功勞者なり、特に畜産獎勵の熱心家にして着々其効果を收めつゝあり、配は家女にして一子あり。

村會議員

豊岡 光之君

(東加茂村)

先考を勝治と稱し嘗て村會議員として村政に參與す、君は明治廿一年二月十二日其の長男に生る、郷學を修了して家業の傍ら土木建築請事業を爲す幾多の体験を重ね最も圖案設計に巧になり、今や縣郡當局の信頼厚く地方の土木事業多くは君の手に成らざるなしと云ふ、曩に選ばれて村會議員となり村政に參與す、又土木委員、神社惣代等として村民の信望あり、配は加茂町田村氏其間二男二女を擧ぐ。

町會議員

都井 賢資 郎君

(加茂町)

先考喜壽衛氏の長男にして、明治三十五年十月三日出生す郷學を了へ青年團支部長より岡山野戰砲兵第十大隊に入り滿期後家業を襲ぐ、昭和八年町會議員となり町政に參與す、加茂町より倉見に通ずる主要道の改修は君與て大に力あり、其他消防組部長、木炭検査員として活動す、配は上加茂村寺阪清逸氏長女なり、三女を擧ぐ令弟進氏陸軍工兵曹長として關東軍旅順無線電信教習所に配屬す。

前村會議員

勳八等 内田 龜逸君

(西加茂村)

君は行重の中庄屋家仁木藤逸氏の三男に生る、明治三十年姫路騎兵第十聯隊に入り、滿期後内田金五郎氏の養嗣子となる、日露戰役に召應出征して大孤山上陸軍に加はり、各地に轉戦し遼陽の大激戰を以て凱旋す、功に依り勳八等白色桐葉章を拜受す、解隊後家業に従事し村會議員たること八ヶ年、退て村内各種公共團體に寄與貢獻す、配は家女なり、六男二女を擧ぐ長は岡山師範を出て小学校訓導次は奉天醫大出身の

醫學士、其他は中學或は商業學校を出く各々實業界に在り。

信用組合主事

藤田 孝一君

(高田村)

嚴父は玉藏と稱し縣農事試驗場役員を勤め地方の精農家たり、君は其の三男にして明治三十五年三月廿六日を以て生る天資温厚勤勉なり、津山中學校より進で岡山師範第二部を卒業し、訓導として香北、津山女子校より眞庭郡落合校に轉じ育英の任に當ること十余年にして職を辞す、昭和十年八月白村信用組合主事となり産業の振興發展に貢獻し以て今日に至る、配は久米郡大井西村杉井家より入り一男二女を擧ぐ。

在郷軍人分會長

田村 武夫君

(上加茂村)

嚴父榮藏氏は曾て村會議員として多年村治の功勞者なり、君は長男にして明治三十四年六月一日生る、郷學を了へ大正十年野戰砲兵として岡山第十七師團に入り、砲兵上等兵に進み退營後先緒を襲ぎ農業に従事す、昭和八年村會議員に當選

す、爾來村書記及在郷軍人分會長を兼任して地方の信望あり配は村内水島貞氏の長女入嫁す。

信用組合専務理事 山崎節治君

(富村)

嚴父を茂吉郎と稱し、嘗て村會議員として村政に參與す代々農を以て業と爲す、君は其の長男にして明治三十年十一月三日を以て生る、大正四年勝間田農林學校を卒業し全六年一年志願兵として鳥取歩兵第四十聯隊に入營し滿期後家業に従事す、後村會議員、學務委員、濟世委員、或は青年團長、自警團長、消防部長等として大小公共に努め尋で昭和六年信用組合専務理事に推されて地方産業の振興及金融業務を掌り以て今日に至る君資性濃厚にして村民の聲望高し。

婦人科醫師 石井保正君

(東加茂村)

嚴君信男氏は舊津山藩士なり曾て小學校教員として多年教育上の功勞者なり君は其の長男として明治三十二年八月四日

津山市に生る、津山中學校を出で東京醫學專門學校を卒業し同校附屬病院及京都帝大産婦人科教室、合敷中央病院産婦人科、助手醫として研究を遂げ、此の地に開業し石井醫院と稱す傍ら村醫及び校醫を囑託せられ地方の名醫を以て聲評あり

村助役 牧野芳之君

(上齋原村)

家代々農を業とし村内の名門なり先考を惣治氏と曰ふ君は明治二十七年四月九日其の三男に生る、四十五年高松農學校獸醫科を出で、鳥取縣東伯郡旭日村に獸醫を開業すること四ヶ年、後川上郡吹矢町畜産技手に轉じ、退職歸郷して自村小學校に教鞭を取ること十ヶ年に及ぶ、更らに苦田郡畜産組合技手として奥津、羽出、上齋原に駐在し、地方畜産事業に貢獻せしが昭和五年村助役に擧げられ十年村長となり爾來村政に參與し今日に至る、配は泉村山口氏四男一女あり。

村助役 西矢安治郎君

(上加茂村)

君の家門は地方の舊家なり、代々農業にして先考は元治郎

元村會議員 福井久五郎君

(高田村)

先考多十郎氏は農桑の熱心家にして耕耘栽培の改良に心をこめて専ら増收に努む、君は長男にして明治六年三月六日下横野に生る、天資濃厚勤勉なり、幼にして父祖の業を助け農事に精勵して地方の範を示し産を増殖す、曾て村會議員其他の役員として村事に盡せしか今は老齡世事を謝し自宅に生を養ふ、配は高倉村金谷氏其間二男四女あり。

消防組頭 倉本卓二君

(上加茂村)

嚴父孝治郎氏は曾て村助役、村會議員、郡會議員として令名あり、君は二男にして明治二十一年三月七日出生す、天資濃厚着實なり、岡山縣蠶業試験場を出で、養蠶技術員となる阿哲郡、赤磐郡、小田郡、英田郡を歴任し岡山縣廳に入り後津山市に轉じ退て家業に従事す、傍ら農家組合長、部落長、消防組頭として警備の任を掌り地方の信賴最も高し、配は久米郡大井東村黒田氏にして二男三女あり、何れも中學或は高等學校、高女の教育を了へ、令兄譽一君は帝大出身の農學士にして山梨縣山林課技師たり。

村會議員 中江石郎君

(中谷村)

先考は繁治郎と稱し地方精農家を以て知らる、君は明治二十年三月一日其の二男に生る、小學校卒業後明治三十八年岡山縣教員養成所を出で、爾來久田、奥津、小田、中谷の各小學校に教鞭を執りしが昭和八年選れて村會議員となり、村政に參與す、嘗ては青年團指導の任に當り又自警團長、消防部長農會總代及評議員として、地方に信望あり、配は郷村長瀧氏一男四女を擧げ家庭圓滿なり。

中谷村助役

井上義久君

(中谷村)

先考彌太郎氏は精農家として地方に聲望あり、君は明治三十一年五月二十六日其二男に生る、郷學を卒へ、父祖の業を襲ぐ、大正十五年村書記となり、昭和十年助役に進み村長補佐の任に了る、勤積實に十余年恪勤諭らず其效績顯著なり、傍ら各種団体の名譽職を兼ね、熱心に活動す資性温厚にして村民の信賴厚し、配は芳野村山田氏、一男二女を挙げ家庭圓滿なり。

村會議員

動八等 高畑則一郎君

(田邑村)

君は繁治郎氏の二男なり、明治十三年五月十三日を以て生る、郷學卒業の後、大阪に出て建築修業中、日露戰役起り、補充兵として鳥取歩兵第四十聯隊に入り、明治三十七年六月出征大連に上陸し、爾來各地に轉戦し功を樹て動八等に叙せられ白色桐葉章を賜はる、戰後郷に歸り農業に従事し傍ら村會議員と爲り、村農會惣代及同評議員として村治に貢献せり配は大西氏、津山市西今町の人、二男あり長は第十六師團歩兵第九聯隊に入り滿洲守備に駐屯す。

村収入役

小原嘉平治君

(上加茂村)

先考長松氏は農事の熱心家にして耕耘增收に力を用ひ地方の範を示すと云ふ、君は第四男にして豊太郎氏の令弟なり、明治二十六年六月二十九日を以て生る、郷學を了へ此地に分家す、爾來家業に精勵して資産を増殖す、現時村収入役に選ばれ村財政を宰掌して地方の信望高し。

小田草神社々司

動八等 齋藤茂雄君

(小田村)

齋藤家は代々小田草神社の神主として地方の舊家なり、君は茂四郎氏の二男にして、明治十五年十二月二十九日出生す岡田師範を出で久田、林野小學校訓導より進で小田校長となり、中谷校長に轉じて職を辞す、多年教育界に貢献したる功績を以て動八等に叙せられ、又縣知事より表彰せらる、今や父祖の職を襲ぎ、専ら神明に奉仕す、配は高野村岸本氏の女

にして長男は廣島高師の出身なり

金刀比羅神社々掌

前橋七郎治君

(加茂町)

嚴父は勝田郡植月村福田雪夫氏と云ふ、明治十五年二月三日其六男に生る、後前橋氏に養はれ神官と爲る、瀧尾村堀坂神社、阿波村八幡神社、高野村陽地神社、加茂町倉見神社及金比羅宮の社掌と爲り、神明に奉仕すること多年、敬神崇祖の思想を養成し、功績鮮からず、一女あり阿波村の人小林貞晴氏を迎へて之に配す、現に中山神社主典たり。

村會議員

町田音吉君

(西加茂村)

嚴父は茂十郎氏農業の熱心家にして上流の産を有せり、君は長男にして明治三十二年一月二十二日生る勝間田農林學校を出で大正九年鳥取歩兵第四十聯隊に入り陸軍二等計手となる、退て村役場書記、在郷軍人分會監事、青年訓練所指導員信用組合理事、農家組合長等の要務を歴任し、昭和八年村會議員に當選し村政に參與す、配は加茂町高谷氏一男一女あり。

村會議員

寺元繁美君

(西加茂村)

家祖は地方の庄屋を勤め、忠四郎氏は町村制實施以來の村會議員たりしと曰ふ、君は長男にして明治十九年四月十六日に生誕す、青年時代より家業に精勵し上流の産を有す、傍ら

村會議員

坂本常四郎君

(高田村)

先考を繁藏と稱す、君は其二男にして明治十八年五月一日

下横野に生る、家代々農業に精勵し産を蓄ふ資性温順にして着實なり郷學を了へ家業に従事す、後推されて村會議員となり、村治に貢献す、其他部落總代、水利委員等を兼務し地方公共に盡力せり、配は神庭村岡田氏二男一女あり長男は家事に従事し、次は幼、長女は津山女子技藝學校の出身なり。

村會議員

早瀬剛毅君

(神庭村)

嚴父は猪三郎氏、祖先是庄屋を勤めし家柄なり、君明治二十年六月十日其長男に生る、歩兵除隊の後青年團長、衛生委員、學務委員、衛生組合副長、部落長、神社總代、農會總代に擧げられ、若田郡農會高野倉庫常務の職を執り、昭和五年以來村會議員と爲り村事に盡瘁す、配は郡内香々美南村久安氏四男あり、長二三男とも皆歿し四男分家す。

元村會議員

池田與市君

(中谷村)

祖考を庄四郎と稱し代々庄屋を勤めし家柄なり農桑を以て業となす、先考菊藏氏は嘗て村會議員として村政に參與し、社寺の總代を兼ね、君は明治十七年一月十七日其二男に生る久田小學校を卒業して父を助け家業に従事す、昭和五年選ばれて村會議員となり、又公共團體の役員として村事に活動す配は泉村小林氏、一男三女あり、長男は高梁教員養成所を出で家業に従ひ、傍ら青年團長、消防組部長、及び信用組合書記を勤む。

信用組合主任書記

正八位 水島二男君

(田邑村)

嚴父濱五郎氏は嘗て村會議員、村助役たり、君は長男にして明治四十五年四月二十六日を以て生る、昭和七年津山中學を出で、幹部候補生として岡山歩兵第十聯隊に入り、十一年四月一日歩兵少尉に任ぜられ正八位に叙せらる、爾來家郷に在りて信用組合主任書記となり、傍ら在郷軍人分會長、或は青年團長として青年指導の中堅人物たり、配は中谷村池田氏なり、令兄保氏は鹿兒島第七高等學校の武道教師を勤む。

收入役

正八位

藤田

温君

(香々美南村)

先考を田淵辰四郎と稱し、君は明治四十年二月二十四日其の二男に生る、後村内藤田幸平氏の養子となり其の姓を冒す、養父は嘗て村會議員として村政に參與す、君は津山中學校を出で第一合同銀行津山支店に勤務し昭和二年十二月幹部候補生として姫路野砲第十聯隊に入り砲兵少尉に任ぜられ正八位となる、退營後中國銀行に復職し同六年自村信用組合に轉じ、同八年村收入役に擧げられ村の財政を掌る、傍ら在郷軍人分會理事として地方青年の中堅人物たり、配は村内藤田文市氏の長女なり其間一女を擧ぐ。

古屋市東區の久國寺専門僧堂に講師を勤め、同年十二月來て加茂町瑞秀山成興寺の住職と爲る、禪氣徹底、妙機當るべからず、緇素渴仰するもの多し。

村會議員

原住

男君

(郷村)

君の始祖は地方の名門にして祖考の配は久米郡毛利筑前守の直裔なり、君は宇太郎氏の第三男にして明治三十年四月を以て生る、資性寡言謹直なり、郷學を了へ商業に従事し、傍ら農業に精勵す、昭和八年六月村會議員に當選して村政に參與し又水利委員の要務に任ず、將來一層の努力奮勵を祈る、配は眞庭郡美和村の大庄屋家福島成己氏の四女なり、一男を擧ぐ幼少なり。

成興寺住職

小倉太

鑑師

(加茂町)

君は明治二十八年一月十九日岐阜縣揖斐郡久瀬村に生る、名古屋第三中學校を卒へ越前永平寺の僧堂に參禪し、大正十三年七月名古屋市外乘圓寺早川大賢の室に入て嗣法し、鈴木天山、加藤晁堂等の諸師に歷事し、昭和七年より九年まで名

元村會議員

植木鹿治郎君

(芳野村)

君が五代以前平九郎氏は農業の傍ら詩書に心を用ひ漢籍の

素養ありし人なりと云ふ、家は地方の舊家なり、先考は久米郡三船氏より入る、君は其長男にして元治元年十月五日生る、幼時は寺子屋師匠片尾松庵に漢籍を學び家産を繼ぐ、傍ら部落長、寺院總代より進で村會議員となる、後芳野、中谷兩村耕地整理組合評議員として事業の完成に力め、昭和五年以來水利組合會議員として現今に至る、配は村内椋代氏四男を擧ぐ、三男は海軍一等兵曹より退て分家せり。

元村會議員

高橋好雄君

(東加茂村)

高橋家は代々庄屋を勤めし地方の名門なり、嚴父を新四郎と稱し、君は明治十四年八月廿日其の長男に生まる、郷學を卒へて家業に従事す、大正五年選ばれて村會議員となり、勤續三期自治の功勞少なからず、後區長、社寺惣代、農會惣代、農家組合長を兼務し地方に信用厚し、配は西加茂村尾島氏其間二男一女を擧ぐ長男は閑谷中學を出でて西加茂小學校に教鞭を取り、二男は津山中學より進で東京醫學專門學校を出で、女は他家に嫁す。

元村會議員 動七等

只友兼太郎君

(上加茂村)

嚴父は伊平氏地方の舊家なり曾て村會議員として令名あり、君は明治四年十二月三日長男に生る、全二十四年姫路歩兵第十聯隊に入り上等兵となる、日清、日露の戦功に依り瑞八旭七の勳章を拜受す、全四十二年村會議員に當選すること二回、退て農會總代、信用組合理事、濟世委員等の要職に任じて村事公同に盡す處あり、配は内田家より入り一男二女を擧ぐ。

幸宮神社々掌

有木惣十郎君

(二宮村)

有木家は地方の名門にして祖先代より中山神社の神主を勤め先考一郎氏に至るまで同神社の荷前祭主たり、君は其長男にして文久二年一月十日を以て生まる、明治初年以來幸宮神社々掌として今日に至る、其間東田邊日吉神社、西田邊霧山神社、及び香々美南村登々呂神社、八幡神社、大野村和田神社の社掌を兼務す、君資性温厚にして夙に敬神の念に厚く至

誠以つて神事に奉仕すること實に五十有五年、官君の效績を嘉みし屢々旌表賞賜せられたりと曰ふ、配は津山市西苦田清水氏二男一女あり。

村會議員

居森

多君

(小田村)

嚴父を關治と稱し君は明治三十四年一月四日其の長男に生る、代々農を以て業となす、資性温厚にして堅實なる精農家たり、若年にして村會議員に當選すること二期以て今日に至る、嘗て青年團長として青年指導の中堅に活躍し、又土木委員、經濟委員、信用組合幹事農會惣代として産業の振興に盡力す、昭和五年苦田郡西部十六ヶ村組合稻作競作會に於て、三ヶ年繼續一等賞に入選し農村模範者として時の縣知事より表彰せらると云ふ。

元村會議員

難波英敏君

(奥津村)

地方の名門にして嚴父を平三郎氏と云ふ、農事に精勵して資産を増殖し、傍ら村事公共に盡力し地方に聲望あり、君は二男にして嘗て村會議員及濟世委員として自治に貢献す、今は退て家業に従事せり、配は津山市畑氏の女にして家庭圓滿なり、現時岡山第二中學校教諭難波民之助氏は君の令弟なり。

元村會議員

小原豊太郎君

(上加茂村)

始祖は矢筈城主(高山城)の客將小原入道新明の苗裔なりと云ふ、長松氏の長男にして明治五年十二月二日生誕す、郷學

元村會議員

田淵彗治郎君

(神庭村)

嚴父は永禮岸次郎氏君は其三男にして、文久三年十月一日



生る、明治二十一年養子として田淵家に入る、家世々農を業とし勤儉資産を増殖す、傍ら神庭、瀧尾小學校、組合會議員衛生委員に擧げられ昭和二年村會議員に當選して村治に參與せしが今は罷めて農業に精勵せり、配は家女にして一男二女あり、男保美氏は朝鮮慶尙北道大邱農林課に勤務せり。

精農家

中本伊三郎君

(高田村)

君は明治四年九月二十七日勝田郡植月村末田吉右衛門氏の二男に生る、全二十七年中本榮吉氏の養嗣子となり家産を繼ぐ、常に農事の改良増收に心を用ひ耕耘培養に其範を示し上流の産を有せり、一女あり勝田郡植月村末田哲夫氏を迎へ女に配す、氏は農林技術員にして日下京都府相樂郡農會に奉職し令孫四人あり。

精農家

神田龜龜君

(高野村)

勤儉力行農事に精勵して地方産業の振興に努力する君の如きは稀なり嚴父を文吉氏と云ふ君は長男にして明治二十八年九月十一日高野村に生る天資温厚なり幼にして父の産を襲ぎ地方青年の模範を示す曩に産業組合中央會岡山支部長の表彰を受く定に所以あるなり、配は勝田郡北吉野村鷹取氏四男一女あり、長女は津山高女に學び他は幼少なり、令弟茂雄氏は津山市青木與三氏の養嗣子となり群馬縣高崎高女の教諭たり。

收に心を用ひ上流の産を造れり、嘗て村會議員に當選し村治に參與し、又他の名譽役員を兼ね村事公共に活動す、現今奥津利用組合長として地方産業興振に努力し、村中堅の人物を以て目せらる。

元村會議員  
奥津利用組合長

友保雅朝君

(奥津村)

友保家は地方の舊家にして代々農を業とし耕耘の改良、増

元青年團長  
自力更正組合長

山中敬一君

(上加茂村)

先考米藏氏の始祖は鳥取縣より轉住せりと云ふ、代々農業

に精心して産を有す、君は長男にして明治四十年八月十二日に生る、郷學を了へ家業に従事し傍ら青年團幹部として中堅に任じ、昭和六年青年團長に進み、退て現今自力更正組合長、十三區青年會長として活躍し地方の信頼あり、配は芦谷伍平氏長女より入嫁す。

の養嗣子となり其の姓を冒す、郷學を修了して消防部長となり、信用組合理事、加茂購販賣組合理事として農村産業の振興に盡す處あり、昭和六年選ばれて桑原部落長となり、又神社總代、吉井川北漁業組合長を兼務し地方に聲望あり、配は勝田郡新野村河本氏四男三女を擧ぐ。

穀物生産検査員

竹内數夫君

(東苦田村)

嚴父を馬治郎と稱す、君は明治二十八年七月十日其二男に生る、代々農事の熱心家なり、郷學を卒へ大邱歩兵第八十聯隊に入營し除隊後家業に従事す、大正九年本縣穀物生産検査委員に任せられ産業の改良振興に努力し今日に至る其他信用組合理事、消防組副組頭、在郷軍人分會長、を兼務し地方の信用厚し、配は津山市東松原竹内氏の女にして四男を擧ぐ。

元村會議員  
自警團長

牧野順平君

(奥津村)

君は田中小太郎氏の三男にして、明治十二年十二月二十五日を以て生る、天資温順勤勉なり、全二十年牧野彌太郎氏の養子となり姓を改む、家代々農業に精勵して上流の産を有す、郷學を卒へ青年團長より進て村會議員となり、自警團長として村事に活動し地方に信望あり、配は家女にして其間六男を擧ぐ、長子一男滿洲國々務院經理課に、二子政貴大阪實業界に三子分家し、四子新京に、五子滿洲に、六子津山中學を出で各々就職活動せりと云ふ。

信用組合理事

佐々木龍逸君

(東加茂村)

君は明治二十年十月十五日同村田中家に生る、後佐々木氏

村會議員

矢野美喜治君

(香南村)

亡父を源藏と稱し代々農を以て業となし上流の産を有す、君は明治二十一年二月九日其の長男に生る、郷學を了へて家業の傍ら商業を営む又岡山縣土木建築請負業者として近郷土木事業多く君の手に成工し縣の信頼ありと云ふ、今や選ばれて村會議員となり村政に參與す、配は同村下井氏其間三男を擧ぐ長男は家業に従ひ、他は勉學中なり、君特に相撲の技に長じ、泉川と稱して中國の斯界に頭取格を以て遇せらるると云ふ。

村會議員 勳八等

堀内清三君

(久山村)

嚴父を水田愛太郎と稱す、君は明治十七年十一月十九日長男に生る、後堀内家の養子となり其の姓を繼ぐ、郷學を修了して青年團の役員となる、同三十七年姫路野砲兵第十聯隊に入り日露戰役に際し補充隊時勤務の功に依り勳八等に叙せらる、滿期歸郷して農事に精勵し傍ら商業に従事す、昭和八年選ばれて村會議員となり、村政に參與す、其の他國勢調査

委員、衛生委員、耕地整理會計掛として、公共事業に貢獻せりと云ふ配は一宮村桑山氏一男三女あり。

村會議員

影山利夫君

(高倉村)

嚴父は保田隆一氏、君は其四男なり明治七年八月九日高野村に生る、天資濃厚着實なり明治三十年影山壽平氏に養はれて女婿となり姓を改む、幼にして林園書院に學び後小學校教員となり多年育英に従事す、退て村會議員となり村治に貢獻す、配は家女なり、三男一女あり長男は工學士辯理士として東都に活躍し、二男は勝田郡須江家の養嗣子として大阪野村銀行支店長となり、三男は家業に従事し長女は高野村保田氏に歸く。

縣吏員

勳八等  
功七級

太田榮作君

(阿波村)

君は明治十三年四月十五日森治郎氏の二男に生る、郷學を卒へ明治三十三年鳥取歩兵第四十聯隊に入營し、基本兵とし

て東京陸軍戸山學校に分遣せられ同三十六年復隊し次いで歸休退營す、日露兵火を交ゆるに當り應召出征して第四軍に加はり各地に轉戦し奉天の大會戰に至る、功に依り勳八等功七級に叙せらる、凱旋後村會議員となり又木郡木炭同業組合検査員たりしが昭和六年進て岡山縣木炭検査員に任ぜられ阿波村駐在詰となり今日に至る。

信用組合理事

川端興藏君

(郷村)

嚴父は泉村坂手吉五郎氏、君は四男にして慶應元年四月二十日に生る、明治二十四年川端利佐久氏の養子となり姓を更む農事の傍ら養蠶に精勵して勤儉産を造る、近時信用組合理事其他勸業委員、水利委員、部落總代として盡力尠なからず特に子女の教育に心を用ひ長、次女共に岡山女子師範學校を出て長は小學校に教鞭を執り次は釜山日報社支店長に嫁す。

青年團長

石原治夫君

(奥津村)

君は明治四十四年十一月二日久米郡倭文中村岡田長四郎氏の三男に生る、郷學を了へ石原家の養子となる、家業の傍ら青年團長として指導教化の中堅に任じ、昭和九年若田郡聯合青年團幹事として前途有爲の良青年なり、愈々自重奮勵を祈る。

精農家

片尾龜五郎君

(芳野村)

君の居は寺村の構と呼ぶ、地方の舊家にして先考芳太郎氏

村會議員

勳八等 小林平治郎君

(上加茂村)

君の家門は地方の舊家にして、山林の大部を有する資産家

なり、先考は甚太郎氏君は二男なり、明治九年六月を以て生る、郷學を了へ家業に従事し、全二十九年鳥取歩兵第四十聯隊に入り退營後日露戰役に應召出征し、清國南尖嘴に上陸各地に轉戦す、遼陽戰三角山の堅壘突撃に際し名譽の負傷をなし勳八等白色桐葉章を拜受す、解隊後家業に従事し昭和十年村會議員となる、其他公共の名譽職に任じて地方公同に盡す、配は加茂町坂本氏一男二女あり。

村會議員 勳八等 杉本元市郎君

(香々美南村)

嚴父を和一郎氏と云ふ、嘗て村會議員たり、代々農を以て本業となす、君は明治二十年十一月一日其の長男に生る、津山中學を出で第七師團配屬看護兵として西比利亞出兵軍に参加し勳八等に叙せらる、凱旋後村信用組合の業務を担任し、又村會議員として今日に至る其他社寺惣代、衛生部長として村事に力む、配は小田村宗森氏一男三女あり男は勝山中學を出で歩兵として滿洲熱河駐屯軍にあり。

在郷軍人分會長 勳八等 光井宗良君  
(高野村)  
君は梅太郎氏の長男なり、明治三十年八月四日に生る、大正四年姫路野砲兵第十聯隊に入り、全九年朝鮮龍山野砲第二十六聯隊に轉じ、大正十五年砲兵特務曹長となる、在職十七ヶ年恪勤精勵克く任務を遂行し、長上の信頼厚く功を以て勳八等に叙せられ昭和六年退職す、爾來郷に在りて家政を整へ苦田郡農會書記となり、郡制廢止と共に村信用組合書記に轉じ、現今在郷軍人分會長及消防組頭を兼ね地方公同に活躍す、配は一宮村小谷氏共間一男二女あり。

黒住教權少講義 長瀧喜一君

(神庭村)

君は虎吉氏の長男にして明治九年五月七日吉見に生る、天資濃厚なり、郷學を了へ家業に精勵して産を治め地方青年の模範者として郡青年團聯合會長の表彰を受く、大正十五年黒住教權師養成所を出で昭和四年同教權訓練七級信教となり、累進して全九年權少講義となり同教會布教に従事す、傍ら吉見神社の氏子總代として神事に奉仕す、配は村内川淵氏一男

二女あり。

事業家 廣戸直貞君

(久田村)

嚴君を熊太郎と云ふ代々庄屋の家柄にして地方の名門なり、曾て村會議員として多年自治の功勞あり、君は明治二十年六月七日其長男に生る、資性剛健にして覇氣に富む、青年時代は剣道に熱心して青年に卒先せしが後土木建築業に従事し、爾來各地に事業工場を設け東西に活動して業務の督勤怠りなく、以て今日に至る、縣下土木請負業者の重鎮として縣の信頼あり、配は芳野村の名族岡重郎氏の女なり、二姉一妹あり共に他家に歸ぐ。

津山製紙會社支配人 森山仙一君

(高倉村)

嚴父圓一郎氏は代々農業に精勵して村閭の信望あり、君は其長男なり、郷學を了へ津山教員養成所を出て、合同銀行員より轉じて現社に支配人として入社し慧眼克く經濟界の變動に善處し、以て現今に至る、齡本年四十四才有爲の人材なり、配は高野村押入櫻井氏一男二女を擧ぐ家庭頗る圓滿なり。

門閥家 廣山和雄君

(富村)

廣山家は藩政時代の太庄屋にして、代々孫左衛門を以て襲任し明治維新に至れる地方の名族なり、先考輝雄氏は陸奥頭時信の長子なり明治四年以來小學校教員として國民育英の任に當り、勤續實に四十ヶ年縣下教育界の功勞者として縣郡上司其他の旌表を受くること十數回に及ぶと云ふ、君は其二男にして明治二六年五月二十五日に生誕す、天資濃厚着實なり郷學を卒へ家業に従事す、勤儉産を治めて農桑に精勵し傍ら青年團役員、木炭組合代議員として地方模範の青年なり、配は村内三村家より入る、因に記す祖考孫左衛門の弟茂左衛門は文久元年分家し鞭負と改名し代々布勢神社の執權神主として神明に奉仕し鞭負、時乘、右近、時繁、貢時治に至る、現代の社掌は全々其族を異にせり(古事記參照)又京都市故珍皇寺住職大僧正安田祖戒師は君が伯父なり大正十二年遷化す。

元村會議員

片岡音五郎君

(東加茂村)

亡父を緊藏と稱す、君は明治七年十二月十五日其の四男に生まれ現地に分家す、郷學を了へて米穀商を営み資産を増殖す、曾て村會議員たること三期に及ぶ、退て濟世委員、東加茂村濟世常務委員として社會公事に力め或は寺院惣代、衛生委員、美作米穀組合評議員等を兼務す、君資性温厚にして志操堅實、地方の聲望家なり、配は加茂町廣戸氏其間一女を擧ぐ津山高等女學校の出身なり。

濟世委員

牧野彌三郎君

(奥津村)

嚴父を萬吉と稱し、代々農を以て業となす、君は明治元年十一月廿二日其長男に生る、郷學を了へて家業に従事し同三十六年村助役となり尋で村會議員となり村政に參與すること三期自治の功勞者なり、其他學務委員、山林委員、産業基本調査委員、自警團長、濟世委員として村事公同に盡瘁す、資性温厚にして地方の信用厚し、配は上齋原村片田氏一男常治

郎氏は京都高等職業學校を出で岡山縣廳に職を奉じ、二宮試驗場技手より進で眞庭蠶業株式會社技師となり更に上房郡農會を経て、目下縣農務課に勤務す。

郷社綾部神社々掌

易

泰 昌君

(神庭村)

大正五年四月十四日神庭村に生る天資温厚勤勉なり、家世々神職を勤む嚴父を一と曰ふ、郷學を終り津山中學に入り中途退學して家業を助け、昭和九年九月社司社掌の試験に及第して郷社綾部神社に奉仕し神明に盡す、君年齒未だ壯ならず、宜しく努力奮勵せんことを祈る。

昭和拾貳年八月廿五日印刷  
昭和拾貳年八月卅一日發行

非賣品

著作  
發行者

岡山縣岡山市門田屋敷三七番地  
河 田 新

印刷者

岡山縣吉備郡總社町三六〇番地  
柳 本 弘 士 智

銅版製作者

岡山縣岡山市弓之町六一番地  
カヤキ 寫眞製版所

印刷所

岡山縣吉備郡總社町三六〇番地  
柳 本 印刷所

發行所

岡山縣岡山市門田屋敷三七番地  
岡山縣各郡市案内誌編纂會

終

